

神奈川県立のビジターセンター

指定管理者 事業計画

公益財団法人 神奈川県公園協会

団 体 の 概 要

(平成 28 年 4 月現在)

団体名	こうえきざいだんほうじんかながわけんこうえんきょうかい 公益財団法人神奈川県公園協会				
所在地	〒231-0027 神奈川県横浜市中区扇町3丁目8番地8	電話番号	045-651-0930		
代表者	理事長 池守 典行	ファクシミリ	045-651-0932		
設立年月日	昭和50年3月20日				
沿革	昭和50年3月20日 財団法人神奈川県公園協会発足 平成7年4月1日 財団法人神奈川県自然公園協会と統合 平成23年4月1日 公益財団法人神奈川県公園協会に移行				
業務内容	事業（定款第4条） ア 公益目的事業 （ア）みどり・環境の保全と創造に関する普及啓発等 （イ）安らぎと快適な生活空間を提供する公園施設等の管理運営、利用促進等 イ 収益事業等 （ア）公益目的事業を推進するための駐車場および売店等の経営 （イ）その他目的を達成するために必要な事業				
主な実績	自然公園関連施設などの管理実績 ・秦野ビジターセンター ・西丹沢自然教室 ・宮ヶ瀬ビジターセンター ・丹沢ビジターセンター ・陣馬自然公園センター 都市公園などの管理実績 ・保土ヶ谷公園 ・辻堂海浜公園 ・恩師箱根公園 ・相模原公園 ・大磯城山公園 ・七沢森林公園 ・座間谷戸山公園 ・秦野戸川公園 ・津久井湖城山公園 ・茅ヶ崎里山公園 ・境川遊水池公園 ・山岳スポーツセンター				
財政状況	年 度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	
(過去3年間 について記入し てください)	総収入	2,050,871,716 円	2,056,802,027 円	2,127,806,990 円	
	総支出	1,932,254,099 円	1,952,891,108 円	2,077,996,206 円	
	当期損益	123,855,528 円	101,114,954 円	44,788,040 円	
	累積損益	979,877,439 円	1,080,992,393 円	1,125,780,433 円	
申請に関する担当連絡先					
氏名	[REDACTED]		部署・職名	[REDACTED]	
電話番号	[REDACTED]	ファクシミリ	[REDACTED]	電子メール	[REDACTED]

(※) 欄が不足する場合は、別紙を追加して下さい。

1 指定管理業務実施に当たっての考え方、運営方針等

(1) 指定管理者としての基本姿勢及び委託の考え方

| ア | 指定管理業務全般を通じての総合的な運営方針、考え方

① 丹沢大山国立公園、県立丹沢大山自然公園の特性の認識

■豊かな自然が残る丹沢

神奈川県面積の約 1/6 を占める丹沢は、丹沢大山国立公園、県立丹沢大山自然公園に指定されており、特に、主要稜線は特別保護地区として厳しく保護されています。自然公園として保全された山域であるため、生物多様性が高く、ツキノワグマをはじめとする生態系の上位種や丹沢固有種のサガミジョウロウホトトギスなど、8,457 種の動植物が確認されています（丹沢大山自然環境総合調査報告書、1997）。



県絶滅危惧種 ツキノワグマ

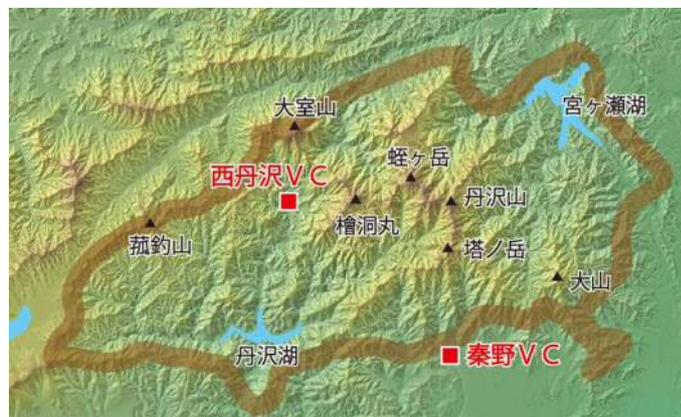


丹沢固有種
サガミジョウロウホトトギス

■多くの利用者が訪れる丹沢

「神奈川県の屋根」と呼ばれる丹沢には、県最高峰の蛭ヶ岳を筆頭に、丹沢山・檜洞丸など 1000m 超の山が 63 座あります。首都圏からのアクセスがよいため、年間 26 万～31 万人もの登山者が入山しています。

最近の登山や健康ブームにより、中高年のみならず若い世代、ファミリーまで幅広い層が登山を楽しんでおり、学校、青少年団体、老人会など多くの団体が丹沢を訪れています。また、平地では観察できない野鳥や植物を観察する自然愛好家や写真愛好家も増加しています。平成 27 年には「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に、“大山”や“大山阿夫利神社からの眺望”が掲載され、さらなる海外からの登山者が訪れることが予想されます。



太線：丹沢大山国立公園・県立丹沢大山自然公園のエリア



賑わう塔ノ岳山頂

■丹沢の荒廃と再生

丹沢では、様々な人間活動の影響や林業の衰退などの経済活動の変化により、ブナ林の衰退、ニホンジカの個体数増加、土壌の流失、外来種の侵入、人工林の荒廃などが見られるようになりました。こうした状況を受け、官民一体となった“丹沢大山自然再生委員会※”が設立され、県が策定した「丹沢大山自然再生計画」の下で、多様な主体の協力により丹沢の自然再生の取組みが進められています。

また、登山者の増加に伴う遭難者数の増加や下層植生の踏み荒らしなど、丹沢大山自然再生計画には位置づけられていない問題も生じてきています。マナーの啓発、登山技術講習などを通して、多くの人々が丹沢を守り、楽しむ姿勢を作る必要があります。

※当協会は県民事業専門部会員として参画し、再生事業の普及啓発などに貢献しています。



ブナの立ち枯れ



土壌の流失



② 2つのビジターセンターの総合的な運営の視点

■ビジターセンターの設置目的・役割

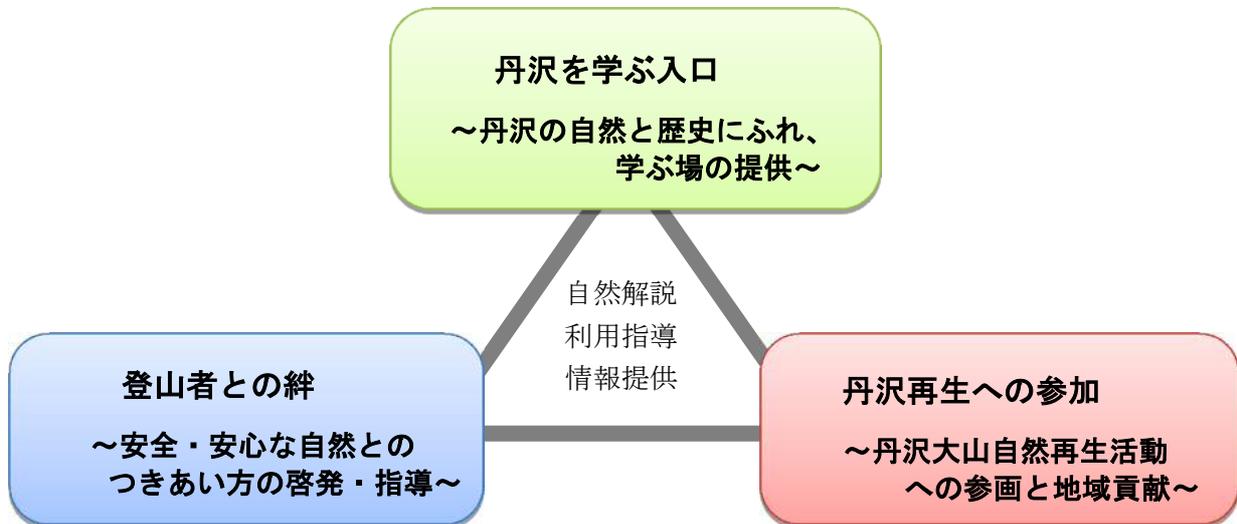
神奈川県立のビジターセンター条例では、「県民に丹沢大山国定公園及び神奈川県立丹沢大山自然公園の地形、動物、植物、歴史等の学習の場並びに適正で安全な自然とのふれあい等に係る情報を提供し、もって県民の自然環境への理解に資するための施設」として、2つのビジターセンター（以下、「VC」）を設置する、と謳っています。

このVCの役割は、以下のように整理することができます。

- 自然、歴史等の学習（自然解説）
- 適正で安全な自然とのふれあい（利用指導）
- 自然環境への理解のための情報の提供（情報提供）

前項で記した丹沢の特性や上記のVCの役割を踏まえ、2つのVCの総合的な運営方針として「丹沢の自然と人をつなぐ架け橋 ビジターセンター」を掲げ、以下の3つを基本方針とした運営を行います。

丹沢の自然と人をつなぐ架け橋 ビジターセンター



丹沢を学ぶ入口 ~丹沢の自然と歴史にふれ、学ぶ場の提供~

丹沢の地形、地質、動物、植物、歴史などについて、利用者の関心や知識に応じて理解を深めることができるよう、館内の展示、館内・館外における解説活動を行います。

- 丹沢の地質的成り立ちや自然の仕組みについて、楽しく学べる場の提供
- 利用者の興味や知識のレベルに応じ、館内の展示・解説から、センター周辺のフィールド、さらに丹沢山地での体験へと段階的にステップアップできるプログラムの提供
- 最新の情報、季節の情報を適切に収集し、提供することにより、リピーター利用を促進



五感を使った自然とのふれあい

登山者との絆 ~安全・安心な自然とのつきあい方の啓発・指導~

安全登山や安全・安心な自然とのつきあい方に関する知識や技術の普及啓発と情報提供を行います。また、自然公園を利用する際のルールやマナーの普及啓発を行います。

- 登山道の状況や気象、安全登山のための知識や技術、装備などに関する情報の収集と提供
- 自然観察や川遊びなどにおけるリスクとその対処方法について情報提供や指導
- 自然公園の中でのルールやマナーの啓発や利用指導



登山計画書提出の呼びかけ

丹沢再生への参加 ～丹沢大山自然再生活動への参画と地域貢献～

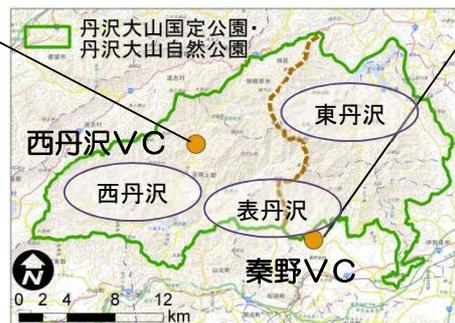
丹沢が抱える様々な課題を解決するための丹沢大山自然再生計画の活動に参加し、丹沢の自然再生と地域の活性化に貢献します。

- 利用者に、丹沢が抱える課題と丹沢大山自然再生計画についてわかりやすく情報提供
- 職員や利用者によって収集された丹沢の自然情報の蓄積・発信や利用者とともに実施する保全活動などを通じた、丹沢大山自然再生計画推進への貢献
- ボランティアや地域住民、企業、地元自治体などと連携し、丹沢の自然の再生と地域の活性化に貢献



県民参加での植樹活動

VC ごとの担当エリア



広大な自然公園のエリアの内、表丹沢と東丹沢地域の拠点機能は主に秦野VCが担い、西丹沢地域の拠点機能は主に西丹沢VCが担います。

③ 神奈川県公園協会としての運営の基本姿勢

神奈川県公園協会（以下、「当協会」）は、これまで40年にわたり数多くの都市公園や自然公園利用施設をしっかりと管理運営し、神奈川県内における自然環境保全と都市緑化に貢献し続けてきました。

都市公園の指定管理では、県の指定管理業務評価において、平成26年度には4公園で「特に優良」の評価をいただくなど、高い評価を得ています。

自然公園利用施設においては、平成2年からの陣馬自然公園センターを皮切りに、宮ヶ瀬VC（H3）、西丹沢自然教室と丹沢湖VC（H8）、秦野VC（H9）と複数の施設を受託し、継続して管理運営を担ってきました。当協会は、長年のこれらVCの管理運営実績を通じ、自然保護の啓発や登山者の安全確保などのノウハウを蓄積するとともに、現地、丹沢の自然を熟知した自然解説員などの人的資源を多数有しております。

秦野および西丹沢VCの指定管理業務にあたっては、このような公益財団法人としての高い公益性・信頼性と、長年のノウハウや人材の蓄積を活かし、

- VCの設置目的を十分に理解し、施設の特性に応じた適切な管理を行い、施設の価値を高めること
- 両VCを神奈川県の魅力向上に資する貴重な財産ととらえ、県民をはじめとする利用者に平等に、その価値を提供し続けること

が当協会の使命であると考え、以下の基本姿勢に基づいてVCを運営してまいります。

■安全で快適な利用環境の提供

県立VCは丹沢の入口にあり、自然体験を通じた学びの拠点です。「公の施設」として、誰もが安心して快適に利用できる環境を提供します。

- 適正で安全な自然公園利用のためのきめ細かい情報発信
- 施設利用者の安全と快適な利用の確保
- 公平・公正な利用の確保

■より高い公益性の発揮

これまでに培った経験と財産を活かすとともに地域や関係団体との信頼関係とネットワークを活かし、地域社会に貢献します。

- みどり、環境、生物多様性の保全の普及啓発
- 神奈川県「未病を治すかながわ宣言」に賛同し、取組む



みどりの普及啓発活動

■効率的、効果的な管理運営

公の施設として、常にVFM（バリューフォーマネー）を意識し、最小のコストで最大の効果を発揮する効率的、効果的な管理運営を目指します。

- 複数施設の一体的管理運営による業務効率化
- これまでに培った人材やVC管理ノウハウの活用
- 従来からの信頼関係にもとづいた地域連携力の活用

｜イ｜業務の一部を委託する場合の考え方

VCで行う事業には、自然などに関する深い知識や情報提供ノウハウが求められます。施設の維持管理においても、施設や設備の特性と、その利用のされ方を熟知した上で適切な維持管理を行う必要があります。そこで、両VCにおいては、丹沢地域のVCの役割を熟知した当協会の職員が業務を遂行することを基本とします。

ただし、法律などで定められた点検業務、専門技術や資格、機械機器類と要する業務、危険性を伴う業務については外部に委託します。また、地域人材の活用の観点から地元企業などに委ねることがふさわしい業務などについても、外部委託します。

■具体的な委託業務内容

施設	区分	管理項目	管理内容	理由
西丹沢VC	施設管理	浄化槽点検	設備点検	免許、専門的知識を要するため
	施設管理	浄化槽清掃	設備清掃	免許、専門的知識を要するため

■当協会の委託システム

委託先の選定にあたっては、競争性・透明性・公平性の確保と業務の品質確保に十分配慮して公募型競争入札を基本とし、適正に行います。そのため、公益財団法人神奈川県公園協会会計規程をはじめとする下記の関係諸規程によって、選定の手順や条件を明文化しています。

一定規模以上の選定にあたっては、県の入札手続きを参考に募集開始から入札まで一定の期間を設け、幅広く応募していただけるように、募集内容を協会HPなどを用いて広く公表しています。委託先は原則として、県の競争入札参加資格名簿に登録された者から選定し、業務の水準を確保します。

- ・専門性の高い一部の業務を除くすべての業務について地元を優先する地域要件を設けています。
- ・神奈川県暴力団排除条例および当協会のコンプライアンスガイドラインを遵守し、委託先が反社会的勢力などと一切の関わりがないことを確認します。

委託業者選定に関する規程

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人神奈川県公園協会会計規程 ・競争入札参加要件等選定委員会要領 ・指名業者選定基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人神奈川県公園協会会計規程の運用について ・競争入札参加要件設定に係る基準 |
|---|--|

2 施設の維持管理

(1) 施設の特性を踏まえた維持管理

施設及び設備の清掃業務、保守点検業務、受付業務、警備業務等についての実施方針

当協会は、これまでの両V C管理を通して得た、各施設の特性や利用の特性を踏まえ、利用者の快適さ、使いやすさ、安全性に留意した管理を行います。

① 施設の特性を踏まえた維持管理の実施方針【秦野V C】

秦野V Cは、秦野戸川公園内にあり、登山者以外にも幅広い利用者が訪れます。子どもから高齢者までが快適に学び、楽しめる施設運営のため、秦野戸川公園と連携し適切な維持管理を行います。

■貴重な展示資料の管理と快適な利用空間の維持（清掃業務・日常管理）

- ・清潔で安全な展示室を維持するため、開館前の清掃を毎日行います。軽微な汚れや破損は直営で迅速に対応し、利用者に快適な空間を提供します。
- ・剥製、岩石など貴重な標本を適切に維持するため、標本の清掃、防虫剤の交換など、標本の取扱いに熟練した職員が適切に管理します。



職員による標本の清掃

■秦野戸川公園と連携した保守点検業務

- ・法律で定められた建物の消防設備点検、電気設備点検などは秦野戸川公園と連携し委託します。
- ・点検により、指定管理者で対応できない不具合が見つかった場合には、直ちに自然環境保全センターに連絡し、平塚土木事務所との協議を依頼します。

■分かりやすく親しみやすい受付・解説（受付業務・展示解説）

- ・おもてなしの心をもった対応を行います。受付カウンターは、情報を求めて立ち寄る場所であり、施設のイメージづくりに重要な場としてとらえ、笑顔で応じます。
- ・朝礼などにより職員が常に最新の情報を共有すること、資料は取り出しやすいところに置くことなどにより、すばやく適切な情報提供に努めます。
- ・「教える」展示解説から、「気づく」展示解説を行います。展示資料を最大限に活用し、触れる、嗅ぐ、考えるなどを通して、「気づき」を促すインタープリテーションを行います。



窓口対応

■秦野戸川公園と連携した警備業務

- ・夜間機械警備は、施設管理委託を行う秦野戸川公園と連携して防犯に努めます。
- ・V Cにおいては事務室の施錠を行い、個人情報記録された書類やコンピュータなどは当協会が定めた「協会が保有する個人情報の扱いに関するガイドライン」に従い、鍵のかかる場所に保管します。

② 施設の特性を踏まえた維持管理の実施方針【西丹沢V C】

標高 540mの登山口に位置する西丹沢V Cでは、利用者の大部分が登山者です。利用者が登山前に気軽に立ち寄ることができるようにするとともに、下山後のバスの待ち時間などを快適に過ごせるよう配慮します。

また、冬期の積雪や凍結対策、断水時の対策など、立地条件による課題が数多くあります。今までの経験により培ったノウハウを活かして、きめ細かい維持管理を行います。

■登山者の憩いの場となる施設の維持管理（清掃業務・日常管理）

- ・登山靴についた泥で汚れやすいため、展示室・トイレ・更衣室は適宜職員が清掃し、常に清潔を心がけます。特にトイレは、利用者が多いシーズンには1日に複数回の清掃を行います。
- ・利用者の転倒事故を防ぐため、濡れると滑りやすくなる展示室の床を、雨天時・積雪時に適宜拭き取ります。
- ・多目的トイレ内のおむつ替えシートは、常に清潔を保ち、安心して使用できるようにします。
- ・ストーブがある休憩室には、山で見かけた花などをグループで調べられるように机と本棚を配置します。また、交流ノートを配置し、登山者同士の交流を促進します。



職員による展示室の清掃

■安定的な施設利用・安全に配慮した保守点検業務

- ・法律で定められた浄化槽点検、浄化槽清掃は、専門の業者に委託します。
- ・設置後年数の経った浄化槽では、周囲の根が侵入しやすいため、定期点検以外にも職員がこまめにチェックし、トイレのトラブルを回避します。
- ・断水時にトイレが利用不可にならないように、常に沢水を汲み置きます。
- ・冬期には、積雪によって入口付近が滑りやすくなるため、除雪および融雪剤を使用し危険防止に努めます。また、屋外の避難経路についても除雪を行います。



バケツに貯めた沢水

■登山者との交流を大切にする受付・解説（受付業務・展示解説）

- ・利用者には積極的に声をかけ、求める情報のニーズを把握するとともに、下山時には山の状況などを聞き取り、情報の収集・発信に活かします。

- ・受付窓口では、利用者が訪れた際に速やかに対応できるような事務室レイアウトを行います。バス到着時や登山者が多い朝夕は施設外で、直接利用者に情報提供や注意喚起を行います。
- ・登山者の命にかかわる気象情報や登山道情報は目立つところに掲示し、安全登山を促進します。
- ・バス時間などのよく聞かれる情報は目立つところに掲示し、受付業務の効率化を行います。
- ・乳幼児連れの利用者には、おむつ替えシートがある多目的トイレや授乳スペースとして更衣室を案内します。

■遠隔地ならではの防犯体制に留意した警備業務

- ・市街地から遠距離にあり、警備会社による警備が困難であるため、自然環境保全センターと協議の上、出入口や窓にシャッターの取付けを行います。
- ・事務室内に金庫を設置し、個人情報や記録された書類やコンピュータなどは当協会が定めた「協会が保有する個人情報の扱いに関するガイドライン」に従って保管します。

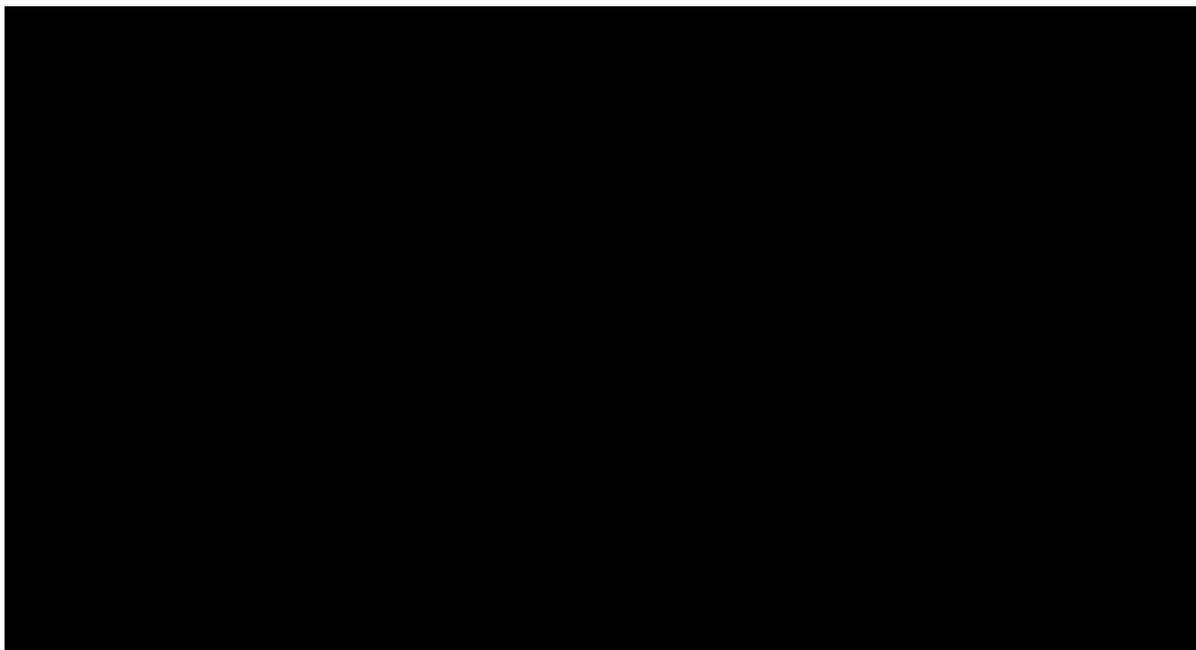
■適切な植物管理業務

- ・建物周囲に植栽されているツツジは、V Cの景観を構成している重要な要素です。職員が適宜植物管理を行い、景観を保つだけでなく、安全性にも配慮します。



ツツジの刈り込み

—業務の基準以上の提案—



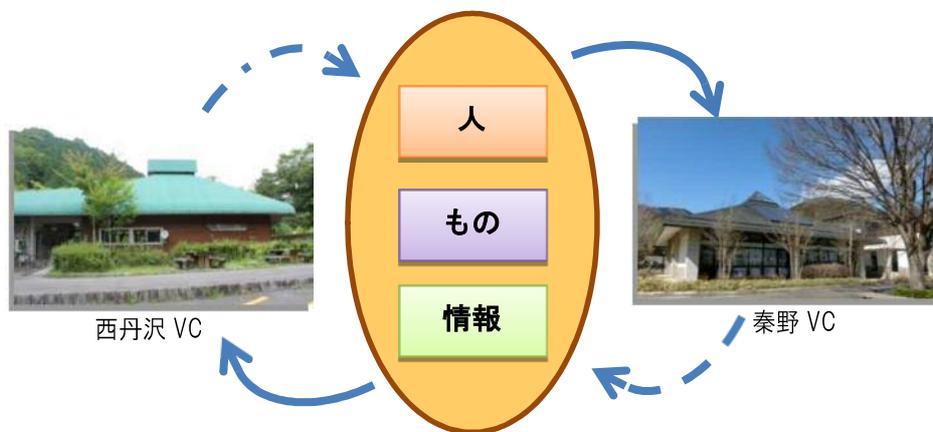
(2) 一体運営による効果的な維持管理

施設を一体的に運営することによる効果的・効率的な維持管理の考え方

■秦野VCと西丹沢VCの一体運営による効率化

両施設ともに丹沢をフィールドとして普及啓発活動・情報提供を行うために、備品・消耗品のほか、情報や事務作業などにも共通のものがああります。秦野VCと西丹沢VCの間で共用化を進めることで、効果的、効率的な維持管理を目指します。

- 繁忙期・イベント時などには相互に職員を派遣し合い、効率的かつ柔軟な対応
- 双眼鏡、顕微鏡などの備品のイベント時の共用化
- 両VCで使用できる展示物や標本などの秦野VCでの保管
- ホームページの統合による効率化と利用者への利便性の向上



人、もの、情報を VC 間で共有

■秦野戸川公園・山岳スポーツセンターとの業務連携

秦野VCに隣接する秦野戸川公園・山岳スポーツセンターは、当協会が指定管理者として運営しています。これらの施設と連携することで効果的、効率的な運営が可能になります。

- 秦野戸川公園が所有する大型プリンター、はしご、AEDなどを秦野VCで共用



秦野戸川公園所有の大型プリンター

■協会のスケールメリットの活用

当協会は県内で多数の公園関係の施設を運営しており、各施設で様々な人材および備品や資材を保有しています。この公園協会のスケールメリットを活かすことで効率的な管理を実現します。

- 本部からの職員の応援体制
- 器材の運搬に必要な車などの相互利用
- トイレ紙やコピー用紙の購入、複合機のリースなどを協会全体で一括して契約することによる経費削減

3 利用促進のための取組、利用者への対応

(1) 施設の利用促進のための企画・取組

| ア | より多くの利用を図るために実施する事業の実施方針、内容等

① 両VCの利用特性とそれに応じた事業の実施方針

■両VCの利用特性

秦野VCでは、秦野戸川公園を利用する家族連れや若者、学校などの団体利用が多く、登山者については、人気の登山口にあたることから比較的初心者の利用が多いのが特徴です。なお、平成27年度末をもって閉館した宮ヶ瀬VCについては、登山利用とともに、周辺での野鳥観察や学校団体の利用が多いことが特徴です。宮ヶ瀬地域でのプログラムは、公益財団法人 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団と連携し、やまなみセンター別館（旧宮ヶ瀬VC）などを利用して実施します。

西丹沢VCは、周辺に本格的な登山コースや沢登りコースが多いため、ベテラン登山者の利用が多く、最近ではトレイルランニングなど多様な利用や外国人利用者也増えています。また、周辺のキャンプ場や川遊びのレジャー客の利用もみられます。

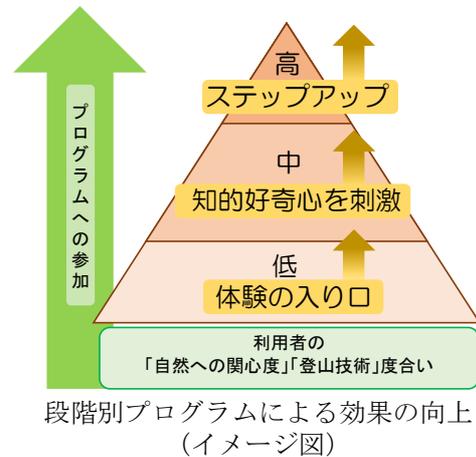
	立地条件	利用者の特色	力を入れる事業
秦野VC	<ul style="list-style-type: none"> ・自然公園の入り口 ・都市から近い登山口 ・隣接施設：秦野戸川公園、山岳スポーツセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校利用が多い ・登山の初心者が多い ・都市公園利用者も多い ・収集・発信する情報の範囲は東・北丹沢 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と触れ合うきっかけ提供 ・登山・自然の情報収集・提供
西丹沢VC	<ul style="list-style-type: none"> ・自然公園の中心 ・奥深い登山口 ・近隣施設：民間キャンプ場、温泉宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山など明確な目的を持っている ・登山の初心者は少ない ・沢登りなど、より専門的な情報への要望 ・収集・発信する情報の範囲は西丹沢 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全登山のための情報提供 ・キャンプ場利用者のマナー啓発・自然体験

② 段階別プログラムの提供

自然への関心度、登山技術の度合いに見合ったプログラムを実施し、丹沢の自然への理解の向上と安全登山の促進を図ります。

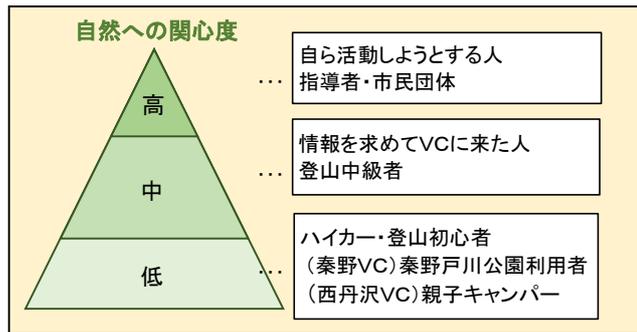
プログラムの実施回数

	屋内プログラム	屋外プログラム
秦野VC (宮ヶ瀬地区開催)	2回/月	2回/月
西丹沢VC	1回/月	1回/月



■段階別プログラム（自然体験）

自然への関心を持つきっかけ作りから、一歩進んだ自然体験へ、そして丹沢の保全活動の入り口へ導くプログラムを行います。



秦野VC

対象	プログラム例	
	名称	内容
関心度「高」	自然教室(上級編) 環境指導者養成講座	公募型の体験教室（丹沢再生事業の現場視察など） 自ら指導をしたい方向けの講座 [自主事業]
関心度「中」	自然教室 セルフガイド	公募型の体験教室 （水無川の岩石観察、宮ヶ瀬地域の野鳥観察など） 利用者がシートをもって観察するセルフプログラム
関心度「低」	園内トーク 丹沢トーク クラフト教室	秦野戸川公園内で行うミニレクチャー 展示室内で行うミニレクチャー 木の実など自然の素材に触れるクラフト体験

西丹沢VC

対象	プログラム例	
	名称	内容
関心度「高」	自然教室(上級編) 環境指導者養成講座	公募型の体験教室（丹沢再生事業の現場視察など） 自ら指導をしたい方向けの講座 [自主事業]
関心度「中」	自然教室	公募型の体験教室（地学教室など） その他、展示室内でのレクチャーを随時実施
関心度「低」	西丹トーク 子ども向けプログラム	施設周辺で行うミニ観察会 クイズやパズルなど体験型のプログラム

◆◇丹沢の自然を五感で感じる自然体験 ～これまでのプログラム例◇◆

自然教室「ミニ登山隊しゅっぱつ」



子どもを対象とした自然教室です。毎回定員の3～5倍の申し込みがあり、5年以上継続して開催してきました。子どもの自然体験を促したい親のニーズが高いことが分かります。

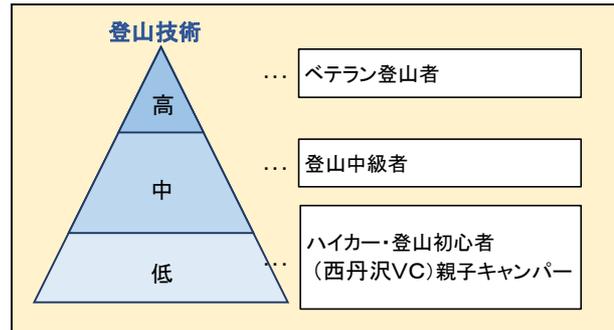
丹沢トーク



事前申し込み不要で30分程度の気軽に参加できるプログラムとして人気があります。写真のほか、模型や剥製を使ったトークも行います。

■段階別プログラム（安全登山）

登山道具の使い方など基本的な知識の習得から、遭難防止のための登山技術の習得、遭難した時の対応、さらには自然環境に配慮した登山方法へと導くプログラムを行います。



秦野VC

対 象	プログラム例	
	名称	内容
技術「高」	登山教室(上級編)	公募型の体験教室（オーバーユースの啓発、自然環境に配慮した登山講習など）
技術「中」	登山教室	公募型の体験教室（基本的な装備・技術、読図能力向上の講習）
技術「低」	登山道トーク	近隣登山道で行うミニレクチャー
	丹沢トーク	展示室内で行うミニレクチャー

西丹沢VC

対 象	プログラム例	
	名称	内容
技術「高」	登山塾	公募型の体験教室（緊急時の対応講習など）
技術「中」	登山教室	公募型の体験教室（水分補給など遭難防止の技術講習など）
技術「低」	出発前レクチャー	立寄った登山者への簡単な道具使用法などのレクチャー

◆◇実践から学ぶ登山技術の向上と自然環境への配慮 ～これまでのプログラム例◇◆

自然教室「山でのトラブル対処法」



登山中に遭難した時、または仲間が怪我をした時に、どのように対処するのかを体験を通して技術向上を図ります。4年以上続く人気のプログラムです。

自然教室「自然にやさしい山登り」

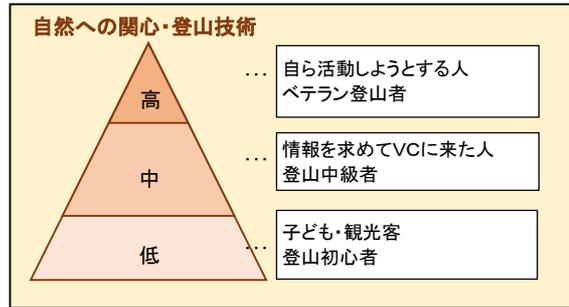


登山道の補修体験。丹沢大山自然再生の課題にもなっているオーバーユースについて学びます。丹沢ボランティアネットワーク所属団体の協力のもと実施しています。

■段階別プログラム（展示）

子どもから高齢者、観光客から登山者まで対象に応じ、常設展示の維持や更新が容易な手づくり展示を展開し適切な環境教育と普及啓発に努めます。

また、テーマ性をもった企画展示を開催し、よりその分野への理解を深めます。



秦野VC

対 象	展示例	
	名称	内容
関心度 「高」	企画展	テーマを設けた展示（丹沢自然再生事業の紹介など） ※このほか、企画展は幅広い関心層向けに実施
関心度 「中」	周辺のみどころ紹介 動植物・歴史紹介	情報収集の結果から旬のみどころなどの展示 動植物の生態や歴史の展示
関心度 「低」	子どもコーナー 剝製・写真	自然への興味を引き出す体験型などの展示 実物を見る、触る、嗅ぐ、など体験できる剝製や標本を充実させる。普段見ることのできない丹沢の風景を写真で伝える。

西丹沢VC

対 象	展示例	
	名称	内容
関心度 「高」	企画展	登山道具の体験展示（ツェルトのはり方、ロープワークなど） 学術資料の展示（ブナハバチやシカの管理捕獲のデータ、論文などの紹介）
関心度 「中」	西丹沢の歴史 周辺のみどころ紹介	常設展を活用した西丹沢周辺の歴史と文化の展示 情報収集をもとに、エリア別のみどころの展示
関心度 「低」	山情報ボード 常設山道具	山や川の注意事項や基本情報がわかるボードを設置 登山に必要な山道具の展示

◆◇『見て』、『触って』、『考えて』そして『発見へ』～これまでの展示例～◇◆

遊びながら学ぶ展示



秦野VCでは秦野戸川公園に遊びに来た子ども達が多く来館します。遊びながら学ぶ展示を職員の手作りで用意しています。

登山道具の展示



安全で快適な登山のためには、正しく道具を使うことが求められます。登山道具の展示は登山者の関心を集めるとともに、安全登山レクチャーのきっかけになっています。

③ 団体を対象としたレクチャー

VCを利用する学校、子ども会、青少年団体、自然愛好団体、老人会などの団体にプログラムを提供します。さらに学校などに職員を派遣して丹沢を知ってもらうプログラムも実施します。

平成 27 年度末をもって閉館した宮ヶ瀬VCでは、多くの学校などに対しプログラムを提供していました。今後も丹沢大山国定公園に対する普及啓発活動が低下しないように、公益財団法人 宮ヶ瀬ダム周辺振興財団と連携して、宮ヶ瀬やまなみセンター別館（旧 宮ヶ瀬VC）などを利用して団体対応を行います。



スライドトーク

○ スライドトーク（30分）

- ・館内で写真や標本を使って、丹沢の自然などを紹介

○ 野外ガイド（～2時間）

- ・野外の自然に触れながら、丹沢の自然などを紹介

○ 講師派遣（2時間～1日）【自主事業】

- ・職員を派遣し、講義または野外ガイドを実施



野外ガイド

◆◇平成 26 年 団体対応実績◇◆

VC	スライドトーク	野外ガイド	講師派遣
秦野VC	17回 639人	2回 56人	4回 323人
宮ヶ瀬VC	26回 967人	10回 416人	1回 7人
丹沢湖VC	8回 518人	10回 293人	3回 164人

平成 26 年度末に閉館した丹沢湖VCは西丹沢VCが、平成 27 年度末に閉館した宮ヶ瀬VCは秦野VCが、それぞれ対応します。

④ 自然・山岳情報の収集と発信

自然公園利用者の事故防止と質の高い自然体験を図るため、関係機関とも連携しつつ、自然公園の動植物や登山道などの情報を収集しVC窓口や掲示などにより提供します。また、丹沢への来訪を計画している人や遠方の人などに対して、ホームページなどを通じて情報を発信します。

■情報の収集

情報収集の範囲は、丹沢大山国定公園および県立丹沢大山自然公園の全域を対象とし、利用が多い場所や問い合わせが多い場所を中心に職員が巡視を行うとともに、山小屋やかながわパークレンジャー、県自然公園指導員、丹沢ボランティアネットワーク所属団体、一般登山者などの協力を得て開花状況や野鳥の飛来状況などの自然情報、積雪状況や通行支障などの登山道情報を収集します。また、収集した情報は両VCで共有します。

なお、公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団と連携し、宮ヶ瀬やまなみセンター別館（旧 宮ヶ瀬VC）を活用し、宮ヶ瀬VCが担っていた情報収集・発信機能を継続します。

○ 職員による情報収集

- ・山地の登山道を巡る情報収集を、各VCで月2回、職員が2名以上で行います。
- ・VC周辺の情報収集は、適宜、職員が行います。
- ・秦野VCでは表丹沢・東丹沢を中心に、西丹沢VCでは西丹沢を中心に収集します。



職員による情報収集

○ 関係機関・登山者などを通じた情報収集

- ・山小屋からの情報（電話など）
- ・かながわパークレンジャー・県自然公園指導員・丹沢ボランティアネットワーク所属団体からの情報（パトロール報告など）
- ・一般登山者、自然愛好家からの情報（帰りがけにVCに立ち寄った際にヒアリング）

■情報の発信

集まったデータを、利用者がより使いやすく、より理解しやすい形で発信します。情報の種類によってメディアを選び、頻繁な更新を心がけます。

○ 館内での提供

- ・受付カウンターで、利用者からの問い合わせに対応
- ・VC内掲示板で、山の気象情報などを発信
- ・収集した自然情報を集計して、生き物暦などを作成、自然解説などに活用



山の気象、日の入り時刻などを展示

○ 遠方の利用者などに向けた発信

- ・ホームページの充実
- ・ブログによる最新情報の発信
- ・メールマガジンの発行
- ・利用者からの電話、メールでの問い合わせに対応



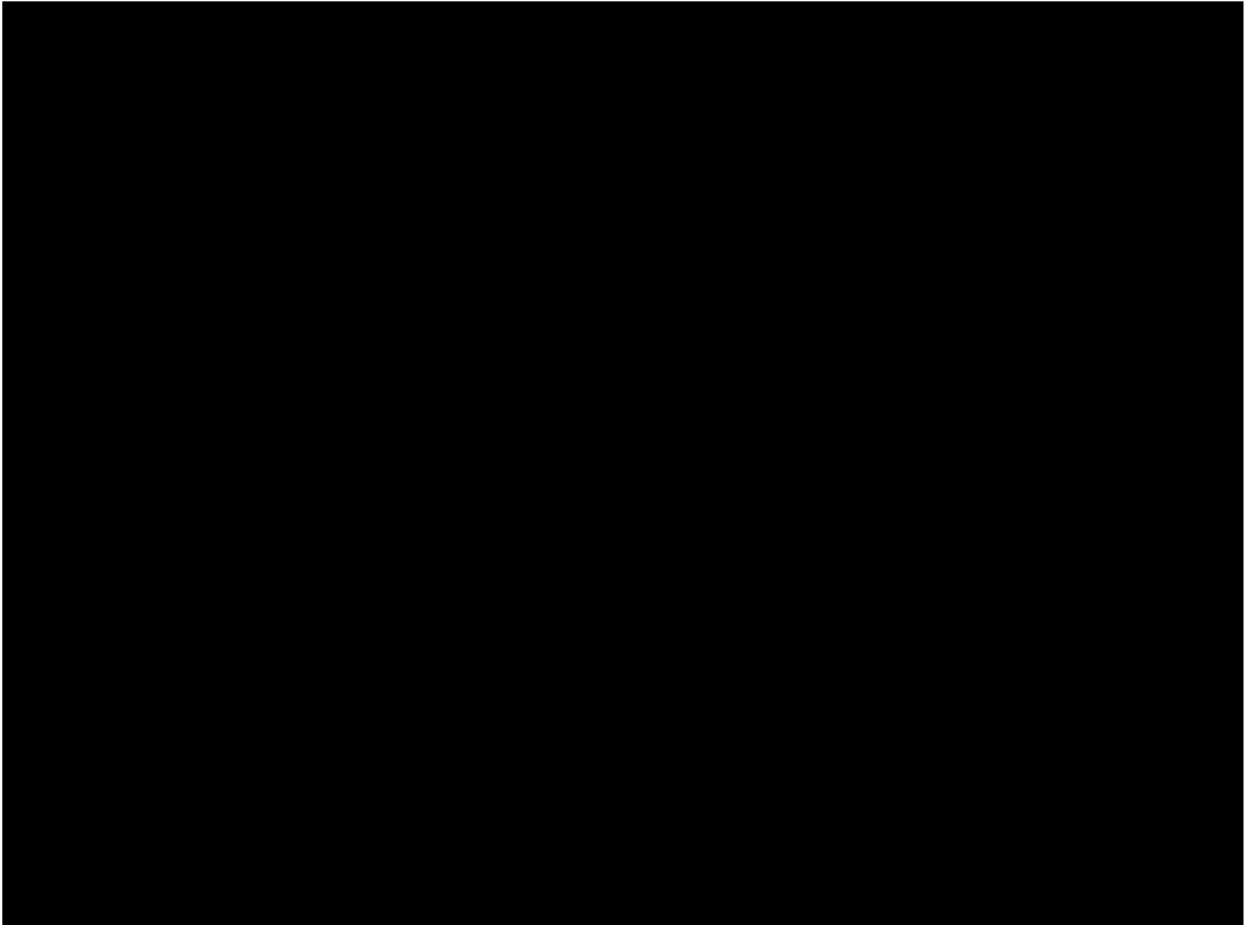
電話による情報提供

◆◇VCへの問い合わせ件数（平成26年度）◇◆

VC	館内	電話・メール
秦野VC	1,681件	1,138件
西丹沢自然教室	2,956件	1,260件
宮ヶ瀬VC	3,532件	595件
丹沢湖VC	3,561件	769件

平成26年度末に閉館した丹沢湖VCは西丹沢VCが、平成27年度末に閉鎖した宮ヶ瀬VCは秦野VCが、それぞれの問い合わせに対応します。

—業務の基準以上の提案—



⑤ 新たな取組

■登頂記念証の発行

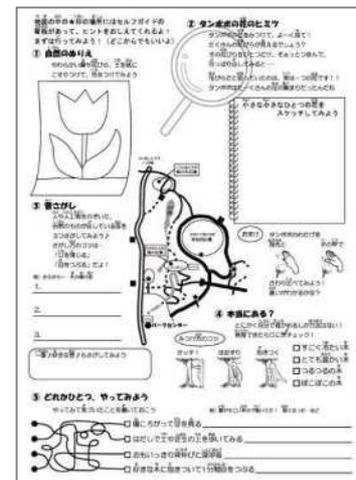
VCで、丹沢の山々の登頂記念証を発行します。これは、登山者のモチベーションや満足感を高めることにつながるほか、受取りのためにVCに立ち寄ってもらうきっかけにもなります。



登頂記念証イメージ

■セルフガイドシートの作成

自然公園歩道などを散策する方のために、セルフガイドシートを作成し、配布します。VCが設定したコースを、ポイントごとの解説を掲載したシートを持って、参加者自身が歩きます。



セルフガイドシート
(茅ヶ崎里山公園の例)

■観察キットの貸し出し

散策目的の方に、自然観察用として双眼鏡・虫眼鏡・図鑑のセットを貸し出し、新たな「発見」を促します。



観察キットイメージ

|イ| より多くの利用を図るために行う広報・PR活動の内容等

多くの方にVCについて知っていただき、来館のきっかけを提供するため、目的や対象者に応じた適切かつ多様な手段、媒体を活用して積極的な広報活動を行います。

■ホームページの充実

これまでVCのホームページは別々に運営・管理していましたが、今後は一本化し、利用者が丹沢全体に係る自然・登山に関する情報を得やすくします。なお、最新情報はブログを用いて更新します。

掲載する内容

- ・自然公園の概要
- ・施設の利用案内
- ・イベント案内
- ・開花状況などの自然情報
- ・積雪状況などの登山情報
- ・登山コースの概略
- ・安全登山の実施方法
- ・ヒヤリ・ハット集 など

◆◇ホームページのアクセス実績◇◆

	H24 年度	H25 年度	H26 年度
秦野VC	28,256 件	32,026 件	34,507 件
西丹沢自然教室	55,554 件	49,240 件	53,787 件
宮ヶ瀬VC	40,437 件	38,333 件	39,095 件
丹沢湖VC	29,594 件	30,842 件	38,336 件

閉館した丹沢湖VC・宮ヶ瀬VCが発信していた情報については、秦野VCと西丹沢VCで発信していきます。

■広域的に情報発信するための幅広い媒体の活用

情報を広域に発信するため、当協会のホームページや情報誌などの広報ツールを活用するとともに、従来から築いてきたマスコミなどとの関係を生かし、県内全域、さらには首都圏に向けた発信を行います。

イベントについては、テーマなどに応じて、関心がある方や対象にしたい利用者層へ情報が行き届くよう、適切な広報手段、媒体を選択し、ターゲットを絞った効果的な告知を行います。

独自の広報ツール	<ul style="list-style-type: none"> ・当協会ホームページ、施設ホームページ(適宜更新) ・ブログ(適宜更新) ・施設メールマガジン(月1回以上発行) ・施設 SNS (facebook、Twitter など) ・公園情報誌「かながわパークナビ」(年2回発行) ・自然公園情報誌「自然公園だより」(年6回発行) ・ポスター、チラシを施設内や当協会が管理する都市公園で掲示・配布
マスコミ関係	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、ラジオ、新聞の取材対応、イベントなどの積極的な掲載依頼 ・新聞での連載記事(「VC発、丹沢新発見」) ・観光雑誌やパンフレットへの登山情報の提供
外部ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> ・県情報サイトなどの活用:「丹沢大山自然再生委員会」、「丹沢登山」、「観光神奈川県 Now」、「PLANET 神奈川県」など ・「表丹沢登山ガイド」(秦野市観光協会) など
交通広告	<ul style="list-style-type: none"> ・駅構内へのポスター掲示・リーフレット配架など ・高速道路パーキングエリア、道の駅へのリーフレット配架 など

■地域のネットワークを活用した情報提供

地域に根差したVC運営の一環として、これまでに築いてきた自治体や関係機関など地域のネットワークを活用し、周辺住民に情報発信します。

ショッピングセンターなど	・ショッピングセンターへのポスター掲示・リーフレット配架・出張展示など
自治体広報紙	・県広報紙「県のたより」、地元市町村広報紙「広報いせはら」、「広報あつぎ」「広報やまきた」などへの掲載依頼
地域のミニコミ誌	・タウンニュースなどの地域誌にイベント情報などを掲載依頼

◆◇ショッピングセンターでの展示◇◆

平成 27 年 5 月、秦野VCでは、市内のショッピングセンターで2週間にわたって展示を行いました。四季の美しい写真などを使って、丹沢大山国定公園やVCの紹介を行い、丹沢やVCを知らない多くの買い物客にも見ていただくことができました。



■イベント、キャンペーンの開催

イベントやキャンペーンなどの機会を通じ、VCの広報とイメージアップを図ります。

フォトコンテスト開催	<ul style="list-style-type: none"> ・VC・県立都市公園などを対象とした「花とみどりのフォトコンテスト」を開催 ・入賞作品を紹介する写真展を各公園や病院などで開催 ・入賞作品を使ったオリジナルカレンダーの制作
外部イベントでのPR	・フォーラムなどの外部イベントでの発表やVC情報の展示

◆◇職員による新聞連載◆◇

神奈川県新聞上で、職員が交代して執筆する「ビジターセンター発 丹沢新発見」を平成25年度24回、平成26年度34回、平成27年度15回と連載しました。

反響は大きく毎年100件を超える問い合わせを受けており、丹沢への関心を高めることにつながっています。

奈川新聞
2014年(平成26年)7月18日 金曜

丹沢山近く、天王寺尾根上部のブナの森は、私のお薦めの森の一つ。

ゆるやかな斜面に森が広がり、ブナやカエデ類の大木が何本もそびえている。見上げれば堂々と枝が広がり、濃い緑に覆われた頭上から、暑い日差しが木漏れ日となってキラキラと降り注いでいる。登山道は、この森の中に続いていくのである。「ミヨ〜キン、ミヨ〜キン、ケケケケケ……」

森に響き渡るこの声を聞いたことがあるだろうか。晴れた夏の日に丹沢のブナの森を歩くと必ずといっていいほど聞こえて

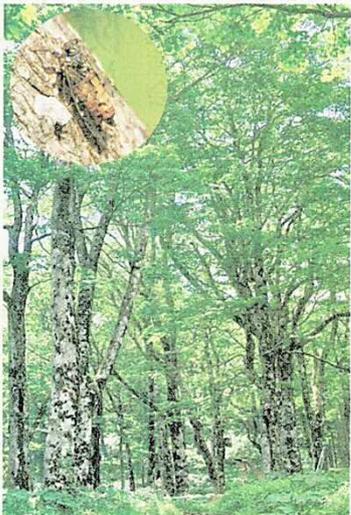


25年) 9月27日 金曜

センター発 新発見

27年) 11月6日 金曜

ターセンター発 新発見



天王寺尾根のブナの森 田内はエゾハルゼミ

セミ時雨のブナの森

天王寺尾根

最初の「ミヨ〜キン、ミヨ〜キン」の独特な前奏が聞こえ始める。すると誘い合わせたかのようにあちこちから声が増え、「ケケケケケ……」と大合唱。まるでカエルの合唱のように聞こえるエゾハルゼミの鳴き声である。

森の中に行くと、上からも横からも「うるさいー」と思うくらい響き渡ってくる。まさにセミ時雨。この声を聞くと、丹沢も夏なのだ実感する。この季節のブナの森を代表する鳴き声である。

ブナの森は四季折々に魅力がたくさん詰まっている。そして、深い森の中にエゾハルゼミの鳴き声だけが響いてくる。そんな中を歩くことができるのは夏ならではである。

山頂まで一気に登ってしまいたいところだが、ぜひ、ひとときの休憩を兼ねて、森と鳴き声に包まれる体験を試みてはどうだろうか。

※夏の登山では、熱中症対策をお忘れなく。十分な水分を持ち、体調を整え、ゆとりを持った計画を。

(県公園協会 森野ビジターセンター 谷脇 美保)

寺尾根を5〜10分下る。

つても1種類ではなく、ホソエカエデなど他の樹種が混然一体と株立ちしている。

余裕をもった登山を

石棚山稜

新松田駅からバスで篠沢、石棚山稜、4時間。女です。実際登山地図など



自然の保護と山歩き

紅葉期

い隆をぬかぬかみを受けて歩きやすい場所を通りたくなる。そのため、踏まれ続け

黄葉や褐葉、オオイタヤメイゲツなどの紅葉が山々を染める。日が短くなる季節、景色を楽しむためには余裕をもった計画が必要だ。

(県公園協会・丹沢湖ビジターセンター 長澤展子)



石棚山稜のシンボルツリーとも呼ばれるカツラの木



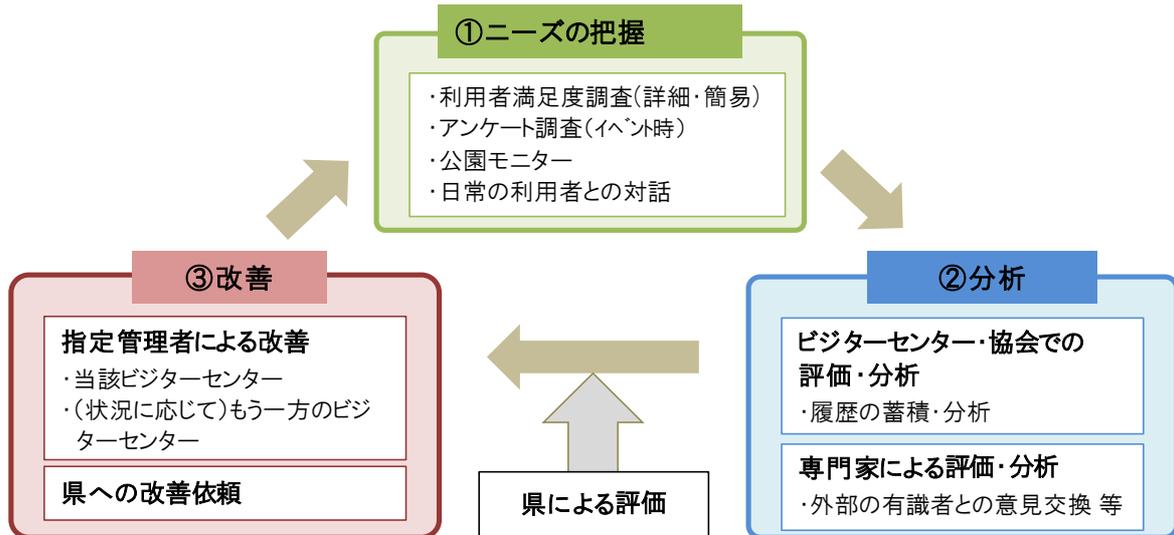
自然をめでつつ、自然にやさしい山歩きをせむる願い (県公園協会 森野ビジターセンター 柳川 美保子) 毎週金曜日掲載

「ウ」サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等

① 利用者ニーズへの対応

■利用者ニーズの把握と反映の仕組み

両VCでは、下記のような仕組みによって利用者のVCに対するニーズやより高品質なサービスを提供するための意見を的確に把握し、評価・分析のうえ、運営を改善していきます。



■利用者ニーズの把握方法

VCへ利用者から直接寄せられた意見に対応するほか、日常の管理運営を通じて職員が気づいた点を集約したり、対象に合わせたアンケートを適宜実施し、意見や要望を把握します。また、当協会が都市公園で実施している「公園モニター」制度を参考にし、接遇やサービス面の実態を第三者による覆面調査で把握します。

調査手法	調査対象、実施方法など
利用者満足度調査(詳細)	利用者に対面式などで実施するアンケート調査(年2回)
利用者満足度調査(簡易)	利用者に展示室内に常時調査票を準備して実施する簡易なもの
イベント参加者アンケート	イベントなどの参加者への満足度などアンケート調査
公園モニター制度	第三者による、接遇やサービスの実態調査(覆面調査)
日常の利用者との対話	通常の業務の中で把握

■利用者ニーズを踏まえた事業の改善

把握したニーズをVCおよび協会全体で評価・分析し、必要に応じて、外部の有識者と意見を交換します。評価の結果、ソフト面の改善は指定管理者が行い、大規模なハード面の改善を要する場合は、自然環境保全センターに要望内容を伝え、対応を協議します。

◆◇利用者ニーズを踏まえた運営改善の具体例◇◆

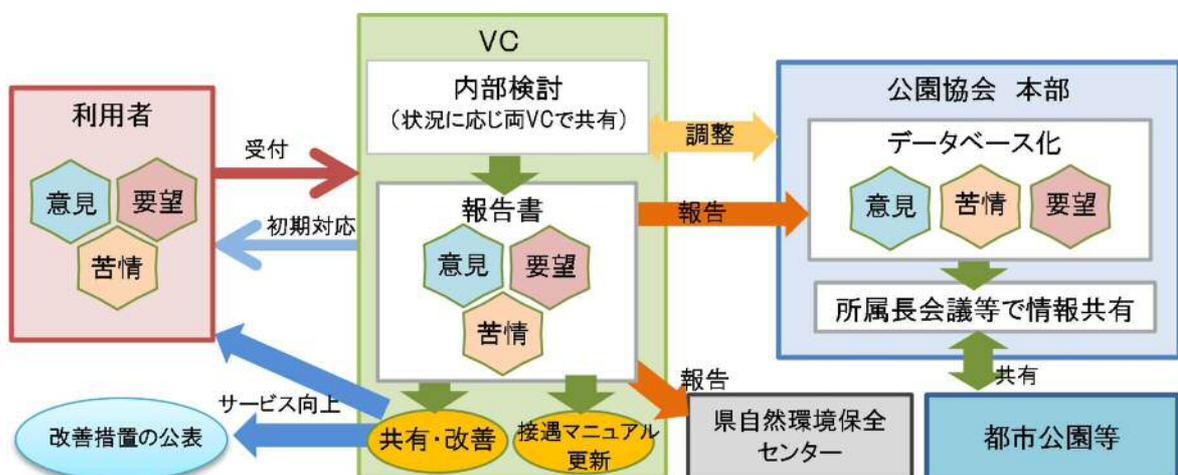
秦野 VC	広報の充実	広報の拡充を求める意見に応え、チラシの配架先を増やした。
	初心者向け登山教室の充実	登山初心者向けの自然教室の参加希望者が多いため、教室開催数を増やした。
	施設周辺コースの紹介	VC周辺を気軽に散策したい利用者も多いため、専用の展示コーナーを作成した。
	子どもコーナーの充実	子どもが遊びながら学べる展示が好評なため、子どもコーナーを充実させた。
西丹沢 VC (旧 西丹沢自然教室)	親子体験プログラムの作成	親子で体験できるプログラムの要望があったため、鳥の鳴き声クイズなどの屋内プログラムと、スラックライン(安全な綱渡り)などの屋外プログラムを提供し始めた。
	山岳遭難の情報掲示	山岳遭難の発生しやすい場所や遭難事例の問い合わせが多かったため、遭難地点やヒヤリ・ハット情報の掲示を開始した。
	外国語対応	外国人登山者が増加したため、山名や地名に英語表記を加えた。
	洋式トイレの設置	洋式トイレの設置要望があったため、自然環境保全センターと協議の結果、和式トイレの一部が洋式トイレに改修された。
	更衣室の設置	下山後の着替えや川遊び後の着替えなどの場所の設置要望があったため、自然環境保全センターと協議の結果、更衣室が増設された。

② 苦情への対応

VCは不特定多数の方が利用する場であり、苦情が寄せられることもあります。そうした際は、誠意をもって迅速に対処するとともに、併せてその原因を究明し、改善策を講じて管理運営にフィードバックします。また、当協会が管理運営する他の施設での苦情・要望情報とも併せてデータベース化し、相互に共有します。

「登山道が歩きにくい」、「看板が少ない」など、自然公園の施設に対する苦情が寄せられた場合も、利用者の主張を誠意をもって聞き、自然環境保全センター担当者などに引き継ぎます。

■基本的な苦情処理の流れ



■ 接遇マニュアル更新と研修

当協会の「接遇マニュアル」に最新の苦情対応事例を盛り込み、職員誰もが閲覧できる場所に設置し活用します。また、マニュアルは苦情対応の事例を多く記載するなど、実態に即した対応ができるよう工夫します。

さらに、定期的な接遇研修では苦情対応方法も加えて実施するとともに、日々の朝礼やOJTを通じて実践的な接遇教育を行い、スキルの向上を図ります。

| エ | 施設の特徴をより効果的に活かすために行う自主事業の内容等

VC利用者の利便性を高め、快適な野外活動を支援するため、物品販売を行います。また、環境教育の指導者養成講座や団体への講師派遣などを自主事業として実施します。

■ 登山や自然観察関連の物品販売(両VC)

登山の必需品である地図、コンパス、簡易アイゼンなどを販売することで、安全な登山をサポートします。また、丹沢の自然をより深く知るために、図鑑やルーペなどの自然関連グッズを販売することで、より充実した自然体験を支援します。

登山や自然観察の専門用品を展示販売することは、これまで関心を持っていなかった利用者の興味を引き出すことにもつながります。



ヘリ写真を活用したオリジナル絵葉書のイメージ

設置場所	秦野VC、西丹沢VC		
販売品目	<ul style="list-style-type: none"> ・登山用品: 地図、コンパス、簡易アイゼン、ヘッドランプ、電池、行動食など ・書籍類: 図鑑、ガイドブックなど ・自然観察道具: ルーペ、野鳥などの下敷きなど ・VCオリジナル: 絵葉書・ポスター(山の空撮写真)など 		
販売場所	受付カウンター	料金	市場価格

■ 指導者養成講座

環境教育の指導者として活動したい方などを対象に、実践的で体系立った講座を開催します。

開催場所	丹沢大山国定公園、県立丹沢大山自然公園およびその周辺		
内容	環境教育の指導者養成講座		
実施頻度	年1回程度	料金徴収	5,000円～10,000円/人

※設定の考え方: 企画、広報、講師代、保険代、テキスト代など

■講師派遣

専門的知識をもつ職員を派遣して、屋内での講義や野外での自然観察会などを実施します。なお、V Cがある市町村の小学校・中学校については、地域連携の観点から料金を免除とします。

開催場所	学校など		
内容	屋内での講義や野外での自然観察会など		
実施頻度	適宜	料金徴収	9,000 円～18,000 円／回

※設定の考え方：人件費、テキスト代など

｜オ｜手話言語条例や外国人への対応等

VCでは、すべての人が利用しやすく、誰もが必要な情報を得ることができるよう、コミュニケーションに様々な配慮を行います。

■聴覚障がいのある方への対応

聴覚に障がいのある利用者が、施設の利用や展示の見学に際して、同伴者の介助がなくても職員が対応できるよう、取組みを進めます。なお、VCにおいては手話による対応が必要になる頻度が大変少ないこと、求められる情報が特殊であることから、手話による対応よりも筆談による対応を推進していきます。

○ 耳マーク

- ・筆談や大きめの声で話すなどの対応をする用意ができていることを示す“耳マーク”を掲示します。

○ コミュニケーションボード

- ・指さしで簡単に意思を伝えることのできる、コミュニケーションボードを用意します。VC特有の対応パターンを加えたVCバージョンを作成します。



受付カウンターに掲示している「耳マーク」



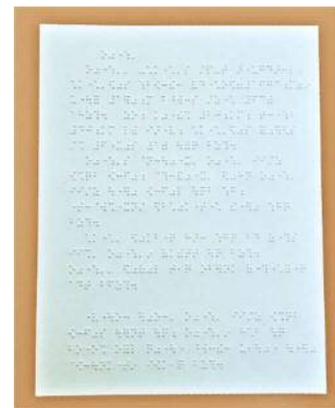
コミュニケーションボードのイメージ(横浜市)

■視覚障がいのある方への対応

視覚に障がいのある方も利用できるよう、展示などを工夫します。

○ 視覚障がい者向けプログラムの提供

- ・触ることのできる剥製や香りがある植物などを活用し、視覚障がいのある方向けのプログラムを提供します。
- ・丹沢を紹介する点字パンフレットを活用します。



視覚障がい者に作成依頼した点字パンフレット

○ 展示物・ホームページの配慮

- ・展示物やホームページの作成にあたっては、県地域保健福祉課が作成した「カラーバリアフリー 色使いのガイドライン」を参照します。
- ・ホームページの文章には音声読み上げソフトに対応した表現を使用します。

■外国人への対応

首都圏在住の外国人や日本へ海外旅行でやって来た外国人など、丹沢の外国人登山者は増加しており、国際共通語である英語への対応から進めます。

- ・山名や地名など登山に必要な最低限の情報について、英語表記を行います。
- ・丹沢を紹介する英語版リーフレットを作成します。
- ・職員の簡単な英語による窓口対応を行います。

(2) 一体運営により可能となる利用促進のための企画・取組

｜ア｜一体運営により展開する、利用促進のための企画・取組

① 秦野VCと西丹沢VCの一体運営による利用促進

■2つのVCが共同で行うイベント

2つのVCが設置されている地域は、同じ丹沢でありながら、植生・地質・地形などが大きく異なっています。こうした相違を活かして共同イベントを行い、双方のVCに立ち寄る仕組みを作ります。

○ 連続自然教室

統一したテーマで、それぞれのVCをめぐる連続したイベントを開催します。

○ スタンプラリー

VCを巡って学ぶスタンプラリーを開催します。地質などをテーマとして扱い、同時に互いの地域特性を活かした展示やイベントを用意します。

■収集情報の共有による効果的な情報提供

○ 広いエリアの情報を提供

両VCで収集した情報を常に共有することで、丹沢に関する問い合わせに対してはどちらのVCでも同質な最新の情報を提供します。登山道の危険情報や開花情報など、これまで運営してきたVCでの蓄積と最新情報をあわせて、広いエリアの問合せにもこたえられる体制を整えます。

○ 情報・ノウハウの共有

行事の企画や展示作成などに際して、職員同士で自然情報や運営・実施上のノウハウを共有することで、事業の効率化と質の向上を図ります。

■広報の一本化

○ ホームページの本化

秦野VC、西丹沢自然教室で独立に運営していたホームページを一本化し、トップページから丹沢全体の情報に接することができるようにします。そのために、写真、イラストなどのデータは、VPN（バーチャル・パーソナル・ネットワーク）によって相互共有します。

○ 共通チラシ

イベントのチラシを共通で作成し配布することで、より効果的な告知を目指します。

■展示の巡回

普及効果の高い企画展示は巡回展示を行います。また、貴重な資料などは巡回することで、効果的に展示します。

② 当協会が管理するメリットを活かした利用促進

■秦野戸川公園・山岳スポーツセンターとの一体運営【秦野VC】

秦野戸川公園、山岳スポーツセンターを当協会が管理していることを活かし、利用促進を図ります。

- ・ 3館合同イベントを開催します。
- ・ 公園をフィールドとして、初心者向け自然体験プログラムを展開します。
- ・ 秦野戸川公園まつりに、丹沢を体験的に学べるトークなどで参加します。

◆◇3館合同イベント 「みんなで作る・登る・遊ぶ」◇◆

丹沢山麓の自然の中で「みんなで作る・登る・遊ぶ」をテーマに、3館の機能を一本化した親子イベントを開催しています。秦野VCでは、山岳スポーツセンターの研修室を使って、丹沢の自然を楽しく・分かりやすく伝えています。

毎年、定員 30 名がすぐに一杯になる人気のイベントです。



■「花とみどりのフォトコンテスト」の開催

当協会では、県立都市公園や県内の自然公園を舞台にした「花とみどりのフォトコンテスト」を毎年開催しており、その入賞作品を都市公園などで展示することによってVCや自然公園を知ってもらい、利用促進に活用します。

◆◇花とみどりのフォトコンテスト◇◆

H27年度の「花とみどりのフォトコンテスト」には932点の作品応募があり、自然公園の写真は約1/4を占めました。

作品は専門家による審査を行います。毎年応募数が増えているほか、応募作品のレベルも上がってきているとの声を審査員よりいただいています。



■都市公園と連携したプログラム

当協会が管理運営する都市公園と連携プログラムを実施することにより、都市部での自然体験への参加機会を増やし、神奈川の多様な自然の理解を促します。

- ・ 都市公園の自然観察会の講師をVC職員が務めます。
- ・ 都市公園で丹沢やVCに関する展示を行います。

イ | 利用の促進を図っていくための指定期間中の年度の目標施設利用者数と設定の考え方

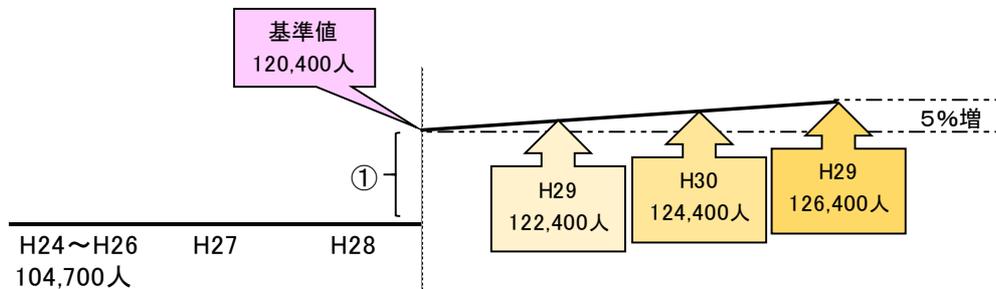
項目	基準値	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
秦野VC利用者数	120,400 人	122,400 人	124,400 人	126,400 人
西丹沢VC利用者数	97,200 人	98,800 人	100,400 人	102,000 人

先に記載した利用促進策により指定管理期間中の3年間で5%の利用者増を目指します。

<設定の考え方>

平成 24～26 年度の年間平均利用者数は、秦野 VC で 104,739 人、西丹沢自然教室で 97,189 人でした。

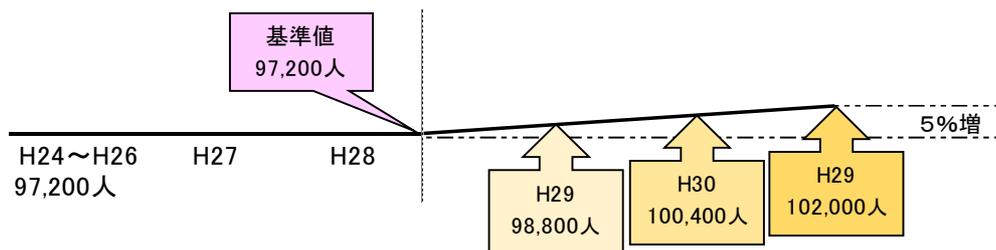
秦野 VC は、平成 29 年度から平日の開館日数増加による利用者数増、および宮ヶ瀬 VC の利用者が秦野 VC を利用することを加味した上で初年度開始時の基準値を定め、指定管理期間内で 5% 増を目指します。



① 基準値の考え方

- ・ 年間 54 日開館数増に伴う自然増 +15,300 人
- ・ H26 年度の宮ヶ瀬 VC 利用者 3% が秦野 VC を利用 +2,400 人

西丹沢 VC は、開館日数がほぼ変更がないため、これまでの平均利用者数を初年度開始前の基準値とし、指定管理期間内で 5% 増を目指します。



■ 利用者数の正確な把握

利用者の増減は、VC の活動評価に重要な基準と考え、入口に赤外線ビームを利用したカウンターを取り付け、正確な利用者数を把握します。



利用者数把握のためのカウンター

4 事故防止等安全管理

(1) 事故防止等安全管理

【ア】指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容

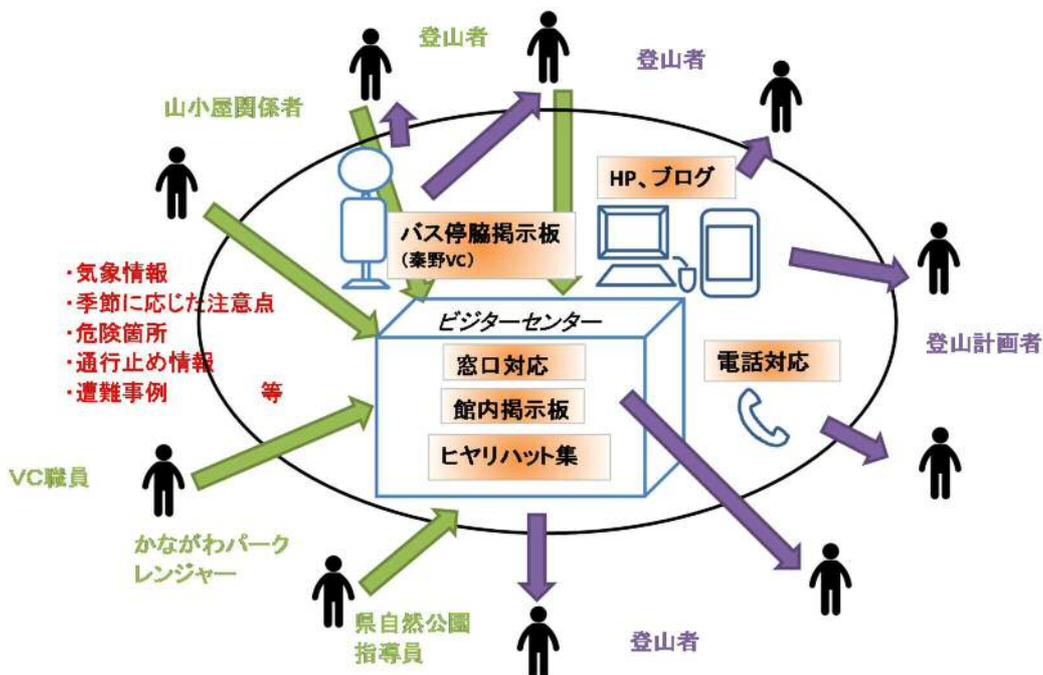
私たちは、40年間にわたる多数の都市公園の管理経験や過去25年間に丹沢で培ったネットワーク、知識、経験を活かし、事故の未然防止に取り組んでいきます。

両VCは、丹沢大山国定公園および神奈川県立丹沢大山自然公園の利用拠点となっていますが、自然の中では楽しさと危険は表裏一体と認識し、利用者および職員の事故の未然防止に努めます。また、事故が起きた場合にも適切に対処できるように、緊急時連絡体制の構築や対応の訓練を行います。

① 登山事故の防止

■山岳情報の発信

登山において生じる可能性がある怪我や体調の悪化、道迷い、天候の急変などのリスクを低減し、万全の状況で登山を楽しんでいただくため、安全登山に資する情報の収集と発信を行います。職員自らが毎月1回以上自然公園の中を歩いて登山道の危険箇所などの情報を収集するほか、登山者、山小屋、県自然公園指導員、かながわパークレンジャーなどの関係者からも最新の情報を集め、窓口、館内掲示板、バス停、HPやブログなど、多様な手段を用いて発信します。



◆◆ヒヤリ・ハット集◆◆

西丹沢自然教室では、登山者から得た転倒や道迷いなどの情報をヒヤリ・ハット集としてまとめ、館内に掲示し、登山者の注意を喚起しています。



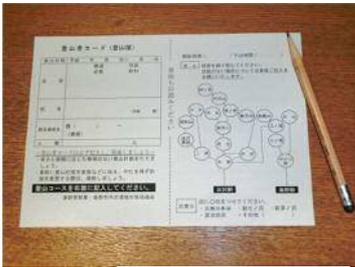
■登山計画書提出の呼びかけ

登山者の事故防止のために、バス停や駐車場など登山計画書の提出の呼びかけを行います。併せてコース紹介や危険箇所、装備や気象といった注意事項などをアドバイスします。

早い時間帯に登り始める登山者が多いため、呼びかけは開館前であっても柔軟に対応します。

◆◇登山計画書の提出呼びかけ日数と提出実績◆◇

	秦野VC	西丹沢自然教室
平成 24 年度	34 日 4,024 件	304 日 6,390 件
平成 25 年度	27 日 4,294 件	301 日 6,752 件
平成 26 年度	25 日 3,623 件	304 日 8,149 件



登山計画書



秦野VC バス停での警察・市役所と合同した呼びかけ



西丹沢自然教室 警察と合同した呼びかけ

■登山技術の普及（再掲）

登山に関するノウハウを普及啓発することにより、事故の未然防止を図ります。

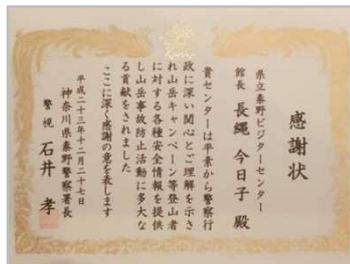
- 登山技術について、レベル別の講座の開催
- 登山技術や安全登山に関する展示の実施

■登山者へのアドバイス

登山道や受付カウンターでは積極的に登山者への声かけを行い、初心者の体力不足や装備不足、無理な登山計画の変更などのアドバイスを行い事故の低減に努めます。

◆◇警察からの感謝状◆◇

秦野VC、西丹沢自然教室とともに、登山計画書の提出呼びかけ、登山情報の提供などの活動が山岳事故防止活動に貢献したとして、警察から感謝状を授与されました。



② VCにおけるその他の事故防止対策

■野外プログラムにおける事故防止対策

プログラム実施前には下見を行い、想定される危険に対して予防措置を講じます。

- ・下見を実施し、危険箇所の把握、スズメバチなど注意すべき生き物の確認などを行います。
- ・事前に、事故が発生した場合のエスケープルート、救急車が入れる場所、AEDの設置場所などの把握を行います。
- ・プログラム参加者には、事前にコース概要や必要な装備などを伝えます。
- ・プログラム実施時には、衛星携帯電話、救急キット、雷感知器などを携行します。
- ・出発前にストレッチを行うなど怪我防止に努め、途中や終了時にも参加者の健康状態や疲労具合をチェックします。

■施設内における事故防止対策

施設内の危険箇所について、日頃から職員が点検し、事故の防止に努めます。

- ・地震などで展示物が落下しないよう固定します。
- ・展示物などの角にはクッション材を取り付けます。
- ・ペレットストーブを柵で囲い、火傷の防止に努めます（西丹沢VC）。
- ・非常扉周辺や屋外の避難経路に、物を置かないようにします。



展示の角に取り付けたクッション材

■職員の事故防止対策

自然公園内での情報収集にあたっては、当協会が定める「情報収集における安全対策について」に基づき、安全に留意して実施します。

施設内においても、高所作業の際はヘルメットを着用するなど、事故防止を図ります。



ヘルメットをかぶって電球交換

「情報収集における安全対策について」に定める安全対策（抜粋）

- ・年2回以上の安全登山研修を実施
- ・近隣情報収集と山岳情報収集の2通りに分け、それぞれの業務実施の際の人数や装備を規定
- ・事前に計画書を作成し、所属長の事前許可
- ・緊急時の家族への連絡先を明記した個人カードを作成
- ・緊急時の対応をフローチャート化

| イ | 事故等の緊急事態が発生した場合の対応方針

■山岳遭難が発生した場合

VCに事故の第一報が届いた場合は、場所や容態などを聞いたうえで警察への通報を促します。救助や捜索の際には、VCを警察・消防の待機場所として使用できるようにします。

なお、秦野VCでは、秦野戸川公園へ連絡し、一体となって対応します。

■施設内で事故が発生した場合

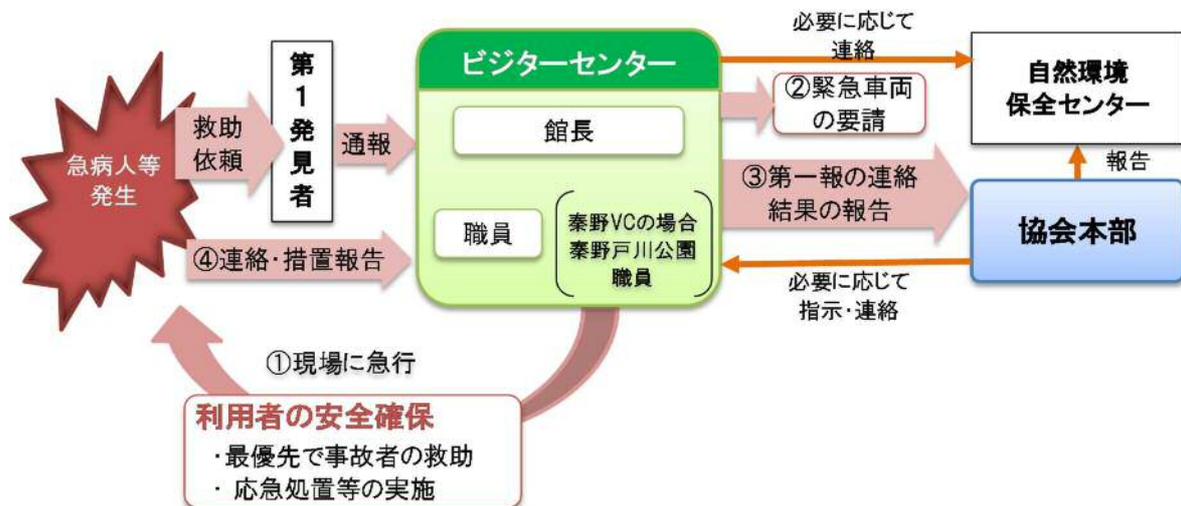
施設内で事故が発生した場合には、利用者などの安全確保を第一優先し、館長を危機管理責任者と定め、次項「ウ」の急病人などが生じた場合と同様の体制で、関係機関に連絡し、協力を要請します。

| ウ | 急病人等が生じた場合の対応

■施設内および周辺で急病人等が生じた場合の対応手順

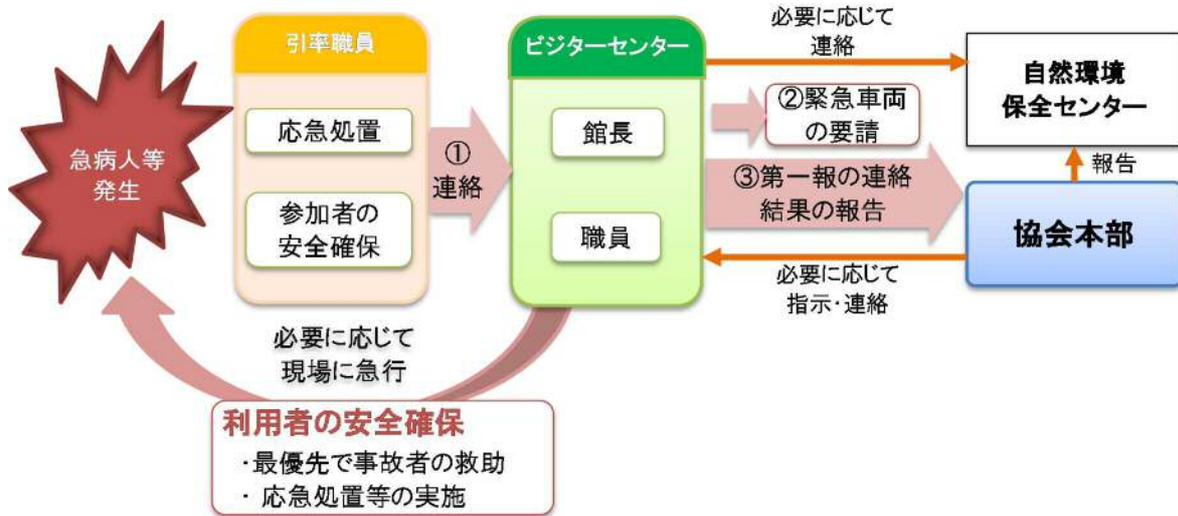
両VCの施設内およびその周辺で急病人などが発生した場合は、以下の手順に従って、職員が状況を把握した上で、病院や消防に連絡します。また、VCにはAED*と救急箱を設置しており、必要に応じて心肺蘇生やAEDの利用などの応急措置を施します。

*秦野VCでは、秦野戸川公園パークセンターに設置されているものを使用



■職員が引率する屋外プログラム中に急病人等が生じた場合の対応手順

屋外プログラムにおいては、救急講習修了の職員が引率します。応急処置を行うとともに参加者の安全を図り、VCに連絡・調整し、対応します。



■急病人等が生じた場合の具体的対応方法

状況確認	・職員が現場に急行し、急病人などの状況を確認します
応急処置	・意識、呼吸の確認 ⇒意識、呼吸がない場合、心肺蘇生の実施やAEDの活用 ・熱中症の場合 VC内の涼しい部屋へ搬送、夏期に常備する氷などで冷やすなど
救急車の要請	・必要に応じて救急車を要請し、進入路の確保、誘導をします。
報告	・事態収拾後には、自然環境保全センター、協会本部へ対応結果を報告します。

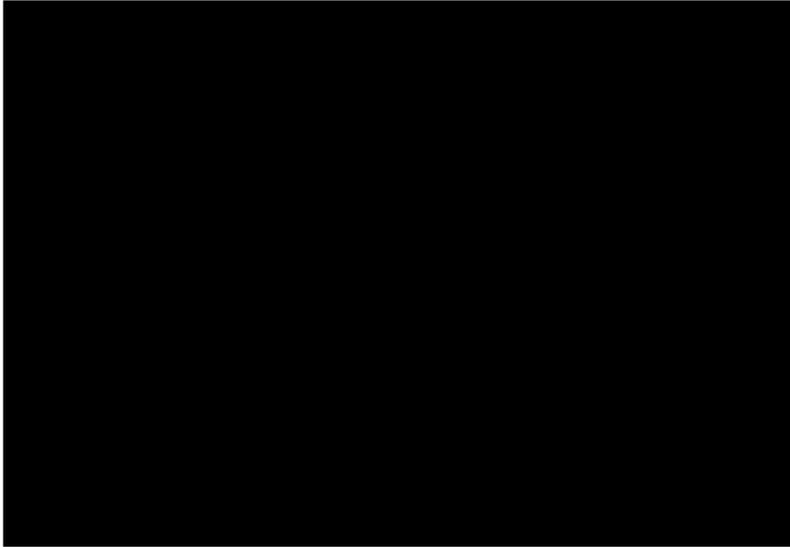
■救命に関する知識・技術がある職員の配置

応急手当に関する知識や技術を学び、身に付けておくために、定期的に救命に関わる講習会などを受講します。全職員が冷静に急病人に対応できるよう、定期的な教育・訓練を行ってスキルアップを図ります。

- 上級救命講習相当以上の受講者などを配置
 - ・ 応急手当、けがの対処、心肺蘇生法、AED取扱いなどについて学ぶ消防署が実施する上級救命講習や日本赤十字社救急法養成講習を受講した職員が常に1人以上勤務します。
- 防災訓練などにおけるAED取り扱い訓練を実施
 - ・ 毎年実施する防災訓練の中で、避難訓練、消火訓練、AED取扱い訓練などを行い、パート職員を含めた全職員がAEDを操作できるようにします。
- 事故発生を想定したシミュレーション訓練を年1回以上実施

■災害時の対応について

当協会では大規模災害発生時でも迅速かつ冷静に対応できるように、各種災害対策の訓練などを行います。また、V Cの特性や立地条件を考慮した備蓄や通信設備の自主財源による整備を実施します。



避難訓練

5 地域と連携した魅力ある施設づくり

(1) 地域と連携した魅力ある施設づくり

| ア | 地域人材の活用、地域との協力体制の構築及びボランティア団体等の育成・連携の取組内容

当協会は、25年間にわたる丹沢地域に設置された複数のVCの管理を通じて、近隣の団体、個人、自治体などとの連携・協力体制を構築してきました。今後もこのつながりを強化し、地域と一体となって利用者へより質の高いサービスを提供するとともに、丹沢大山自然再生など自然環境の保全と地域づくりに貢献していきます。

① 地域人材の活用

VCでは、職員の雇用や事業の実施に当たって地域在住の方を積極的に登用し、地域の方が生き生きと活躍する場を作り出すとともに、利用者サービスの向上につなげます。

■職員の雇用

地域の人材を職員として雇用することで、きめ細かな地域情報を利用者へ提供します。

■専門性の高い人材の活用

丹沢周辺に居住する学識者に自然科学や歴史民俗などをテーマにした自然教室の講師依頼や展示物作成へのアドバイスを頂きます。また、地域で活動する画家や写真家の作品の企画展を開催し、併せてトークイベントなどを行います。



絵画展トークイベント

◆◇地域の専門家による自然教室◆◇

過去には、地域の専門家の協力により、以下のようなテーマで行事を開催しています。

自然科学：丹沢の成立ちが解る岩石観察

人文歴史：石仏や地名の歴史を訪ねる低山ハイク



地元の専門家が
行事の講師を務めた

② 地域との協力体制の構築

■安全登山に係る警察などとの連携

自然公園利用者の安全に向けた取組みにおいて、警察や自治体などと連携します。

○警察などとの登山計画書提出の呼びかけ

- ・警察などと共同で、登山計画書を提出してから登山に臨むよう呼びかけます。
- ・秦野V Cは、秦野警察署、秦野市観光課などと合同で定期的を実施します。
- ・西丹沢V Cは松田警察署と連携して毎朝実施します。



警察と合同で登山計画書の提出呼びかけ

○遭難救助連絡会での連携事業

- ・秦野V Cは秦野市遭難救助連絡会に参加します。会議の際、V Cに届いた危険箇所や登山者情報を提供します。
- ・事業の一環として地元中学校への「山岳特別授業」や一般向けの「山岳特別講座」を実施します。

■自然情報／登山道情報収集における地域連携

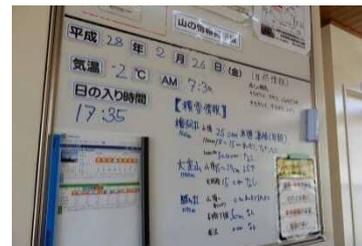
地域で活動する組織や個人とつながりを持ち、情報収集のネットワークを構築します。

○神奈川県、丹沢周辺の自治体と情報共有

- ・自然環境保全センターの関係各課とV C職員をメンバーとする自然保護情報交換会に参加します。

○かながわパークレンジャー、県自然公園指導員や丹沢ボランティアネットワーク所属の団体と連携

- ・丹沢山中の情報を集めるにあたって、かながわパークレンジャーなどのボランティアと連携します。



山小屋などから集めた積雪情報の発信

○山小屋からの情報収集

積雪など気象情報や登山道情報は山小屋との良好な関係を維持し、収集します。

■周辺類似施設との連携

調査研究や野外体験などを行う以下の施設とは、情報交換や資料の貸し借りなどの協力を行います。

- ・ 県自然環境保全センター
- ・ 県立札掛森の家
- ・ 県立生命の星地球博物館
- ・ 秦野市くずはの家
- ・ 厚木市郷土資料館
- ・ 平塚市博物館
- ・ 愛川町立郷土資料館
- ・ 相模原市立博物館
- ・ 相模原市立相模川ふれあい科学館など



借用した剥製を展示



博物館から依頼された資料の同定

■広報など情報発信の連携

自然/登山道情報やV Cの行事などについて、対象者に効果的に情報を届けるために、地域の公共施設や民間施設と連携して広報活動を行います。利用促進のために、広報の連携の拡大強化に努めていきます

- ・ V Cが作成する自然情報を、丹沢周辺にある公共施設や観光協会へ送付して、掲示を依頼します。
- ・ 山小屋や観光施設など民間施設で、自然情報やV Cの紹介、イベント告知の掲示を依頼します。
- ・ 丹沢の登山の相談などの問い合わせが周辺自治体や観光協会に届いた場合は、取り次いでもらい、V Cが対応できるよう連携します。

広報連携（V C作成物送付先）の例

公共施設	県、市町村、観光協会、博物館、図書館、公民館、学校など
民間施設	山小屋、山麓の商店、観光施設、登山用品店、飲食店など



配布している玄倉川散策マップ

■地域の自然体験事業との連携

森林セラピーやエコツーリズムなど、地域の自然体験事業と連携して、地域の自然活用と観光による地域の活性化を促進します。

- 森林セラピー連携運営評議会委員として、「森林セラピー基地」として認定されている山北町に協力
 - ・ チラシ配布など広報の協力をします。
 - ・ 西丹沢V Cを集合場所として提供します。
 - ・ 森林セラピーガイドへの情報提供などを行います。
- 「未病いやしの里の駅」として、「未病を治す」取組みに協力

西丹沢V Cは、“未病を治す”取組みを体験できる施設として、「未病いやしの里の駅」に登録されています。

- ・ 利用者に森林浴の効用を説明し、周囲の森林散策へ誘導します。
- ・ “いやしの里スタンプラリー”などのイベントに積極的に協力します。

- 県が「エコツーリズム推進事業」として指導者養成を行ったN P O法人丹沢自然学校と連携

- ・ 広報協力や施設の利用を働きかけます。
- ・ プログラムの相談や自然情報の提供に協力します。



森林セラピーガイドの様子

③ ボランティア団体等の育成、連携

■個人のボランティアを直接支援する活動

VCにはボランティア活動をしている方が多く訪れます。彼らが必要とする情報や資料などのニーズに応えることで、VCはボランティア活動を支援しています。

○ 自然公園指導員の育成・連携

- ・ 2年ごとに募集される県のボランティアである自然公園指導員の養成講座には、VC職員が講師として参画します。
- ・ 自然公園指導員が巡視を行う前にVCへ立ち寄った場合には情報提供を行い、下山後は山中で見つけた動植物などの問い合わせへの対応を行います。
- ・ 自然公園指導員によって得られた最新情報は館内の掲示板やホームページなどで活用し、自然観察や登山などの情報提供側として参加できる場を提供します。

○ 常連者との絆

- ・ 常連でVCを訪れるような、丹沢をよく知り、丹沢を愛するバードウォッチャーや登山者には、会話などを通じて、丹沢大山自然再生や自然環境保全へ参加していくように働きかけます。

○ 指導者養成講座の開催（再掲）

- ・ 環境問題に関心の高いボランティアや活動のリーダーを目指している人たちを対象に、環境教育指導者の育成に取り組めます。

■ボランティア団体との連携活動

丹沢地域で活動をしている団体は数多くありますが、なかでも「丹沢大山ボランティアネットワーク」の所属団体とは、連携した活動を行っています。

秦野VCはボランティア団体の活動を紹介する展示や“NPO法人みろく山の会”と連携した登山道補修体験プログラムを実施します。

西丹沢VCは、エコツアーガイドの養成にかかわってきた“NPO法人丹沢自然学校”と連携し、広報や会場提供などの協力を行います。



ボランティア団体を紹介する企画展



ボランティア団体による山のゴミ回収

◆◇丹沢周辺で活動するボランティア団体の研修◇◆

当協会は平成21年度から、丹沢周辺で観察会などの環境教育活動を行う団体のレベルアップを行う「自然再生講座」を県から受託しています。平成27年度までの期間に20回の研修を行い、のべ424人の参加者がありました。

④ 自然再生などの仕組み・活動への連携

■ VCの自然環境保全などに関する事業への参加

○ 丹沢大山自然再生委員会の委員として計画推進に参画

- ・利用促進事業の中で、丹沢の現状や自然再生の取組みをテーマとした展示を行うほか、丹沢大山自然再生をテーマとした自然教室の開催も行います。また、情報収集の際には丹沢大山自然再生委員会の旗をザックに付け、PRを行います。

テーマ展	「丹沢自然再生」(2010 年度) 「私たちのくらしと丹沢」(2009 年度) 「ひろげよう！表丹沢活動の輪♪ ～私たち、こんな事しています！～」(2011 年度)
自然教室	自然再生の現場を訪ねる 登山道整備体験と山にやさしい歩き方を考える

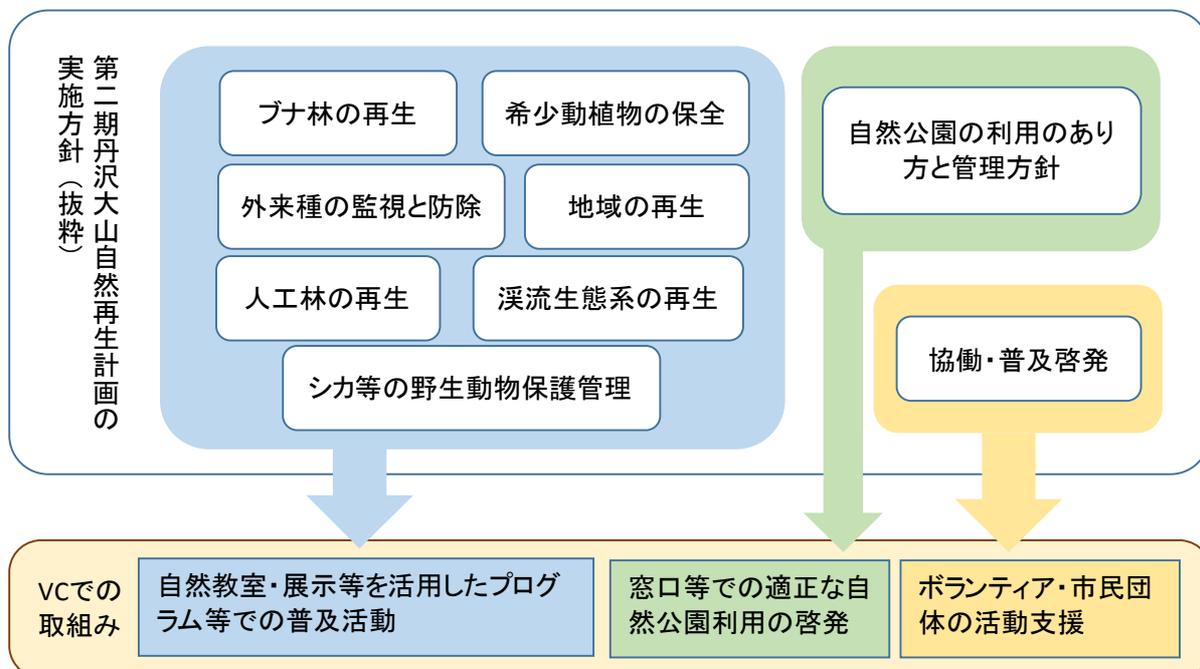
- ・丹沢大山自然再生フォーラムでは、VC活動の発表を行っています。



自然再生の現場を訪ねることをテーマにした自然教室



丹沢大山自然再生フォーラムでの職員による発表



第二期丹沢大山自然再生計画の実施方針とVCでの取組み

■当協会の自然環境保全などに関する事業への参加

○ 丹沢大山自然再生委員会への参画

- ・県民事業専門部会の委員として、地球環境イベントアジェンダの日、ワールドフエスタ・ヨコハマなどの普及啓発事業に協力しています。

○ その他の丹沢地域の事業への参画

- ・丹沢のゴミ拾いを行う「丹沢クリーンピア 21」の委員として、広報の協力や当日の活動支援を行っています。
- ・植樹活動や植物生育モニタリングを行う「丹沢の緑を育む集い」の委員として、広報の協力や職員の参加を行っています。

◆◇箱根地域での活動◇◆

- ・「箱根の自然に親しむ運動」の委員として、自然観察会などを実施しています。
- ・「箱根自然解説連絡協議会」に参画し、箱根VCなどと連携した自然環境の保全活動を実施しています。

| イ | 地元企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容

① 地元企業等への業務委託

VCの管理運営業務は、基本的に、職員直営により実施しますが、西丹沢VCの管理運営においては、浄化槽の点検、維持管理を委託しています。

② 地元との連携による地域活性化への貢献

VCと地域が連携して各種事業を行うことで、VCおよびその周辺に人が集まり、周辺施設での消費を誘発するなど、地域活性化に貢献することができます。両VCのこれまでの管理実績において築いてきたつながりを活用し、地域活性化に貢献します。

■地元でのイベントへの参加

連携	内容
山北町など	西丹沢山開き
秦野市など	秦野丹沢まつり、秦野戸川公園まつり
観光協会、公民館、丹沢関連団体	丹沢ボッカ駅伝など各種イベントの共催

■企業とのタイアップ、協賛イベントの実施

連携	内容
丹沢大山自然再生委員会への参画企業	丹沢大山自然再生事業に関するイベントの実施
登山用品店、観察用品店	共催でのプログラム実施
旅行会社	登山ツアーの際にVC利用活用
公共交通機関	地元交通機関と協力したハイキング・登山の案内

■周辺観光情報の提供

VCでの窓口対応においては、自然公園についてだけでなく、地域振興の視点から周辺の観光施設などについても広く情報提供し、丹沢地域の観光窓口としての役割も果たします。また、情報提供にあたっては、周辺の観光案内所や道の駅と連携して実施します。

VCにおける周辺観光情報提供の例

- | | | | |
|-----------|--------------------------|--------|---------|
| ・周辺の飲食店 | ・宿泊施設などの紹介 | ・温泉の紹介 | ・割引券の配布 |
| ・地元特産品の紹介 | ・周辺施設のパンフレットやチラシの掲示・配布など | | |

6 適切な積算

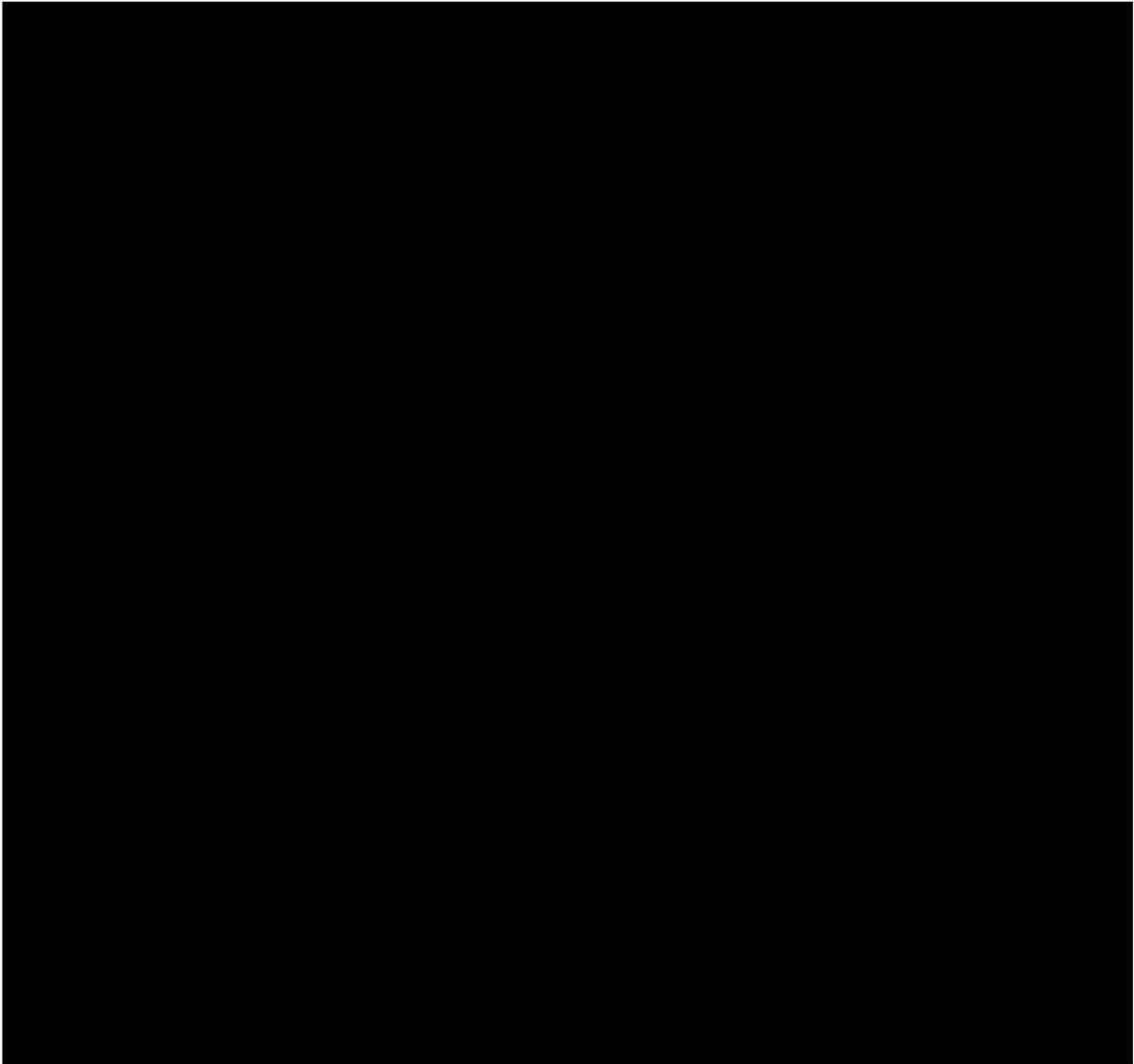
別添資料

7 節減努力等

積算（内訳）において特に留意した事項



経費節減について工夫した点、努力した点等



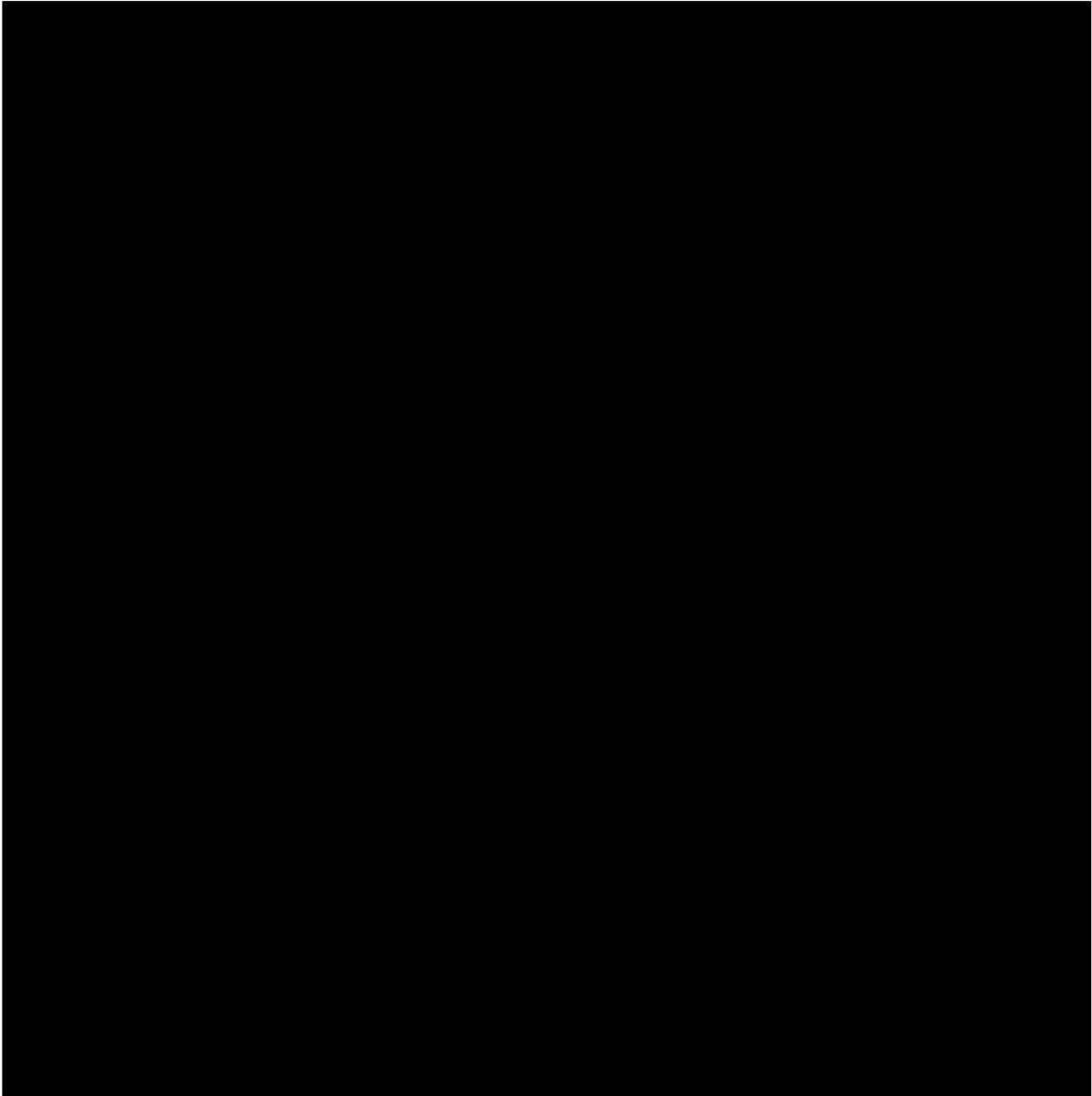
8 人的な能力、執行体制

(1) 人的な能力、執行体制

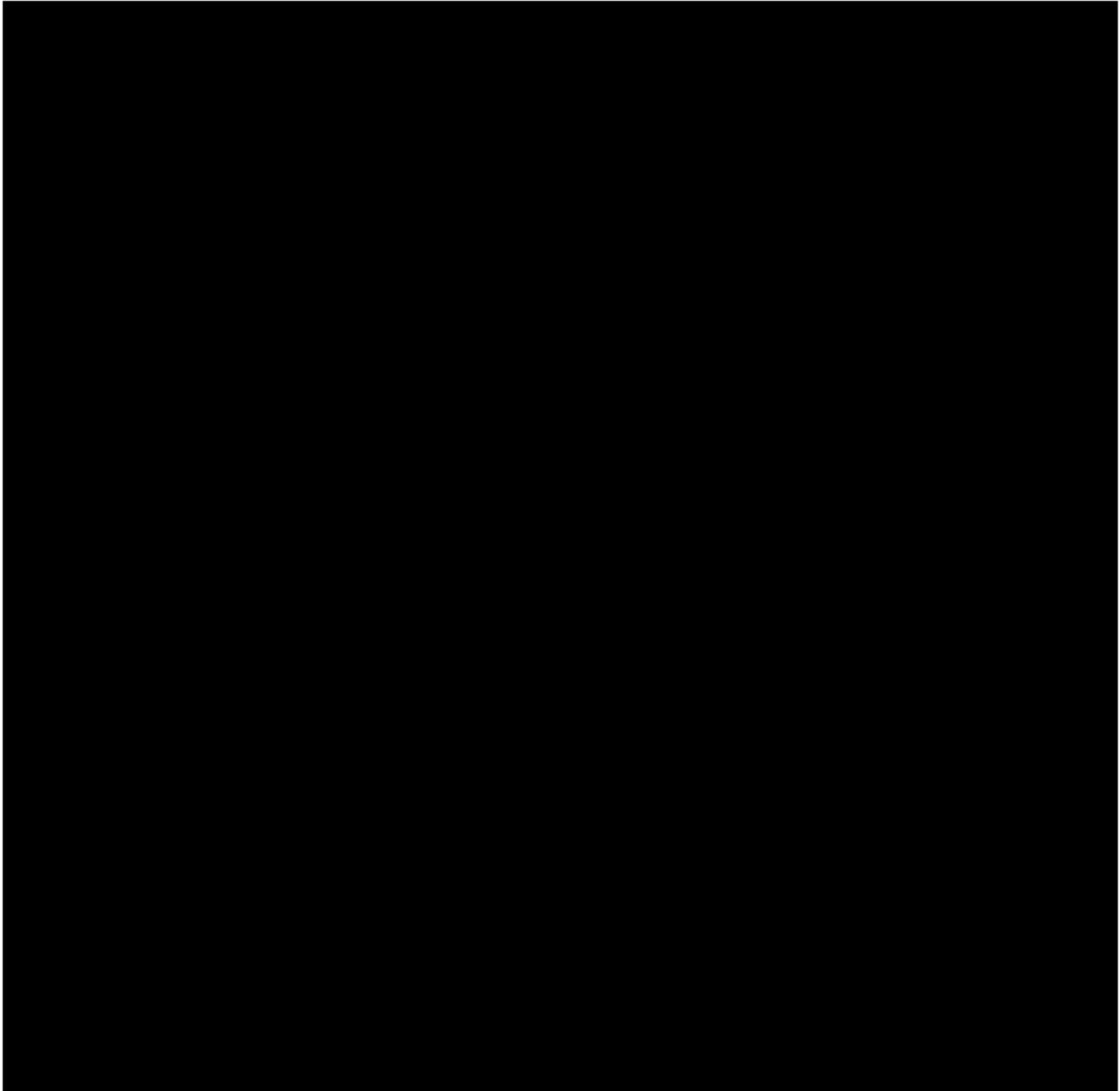
| ア | 指定期間を通じて2施設を一体的かつ効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況

VCにおいては、県、県自然環境保全センター、公園協会本部としっかりとした連絡体制をつくり、効果的・効率的な管理運営を行います。

■ VC職員配置と役割および経歴など



■VC組織図および連絡体制



|イ|業務の一部を委託する場合の管理・指導体制

委託業務の実施にあたっては、規程やマニュアルに基づき、業務の進捗に沿って指導監督を行います。

■指定管理者としての点検方法、指導監督など

業務を委託した際には法令遵守、品質確保、安全確保、工期厳守、利用者対応に留意して委託業務の指導監督にあたります。監督員には経験者を配置し、委託先の業務責任者を指定した上で、日報の提出や現地確認などにより指導監督します。また、業務完了後は、完了検査を実施し業務の履行確認を行い、品質確保を図ります。

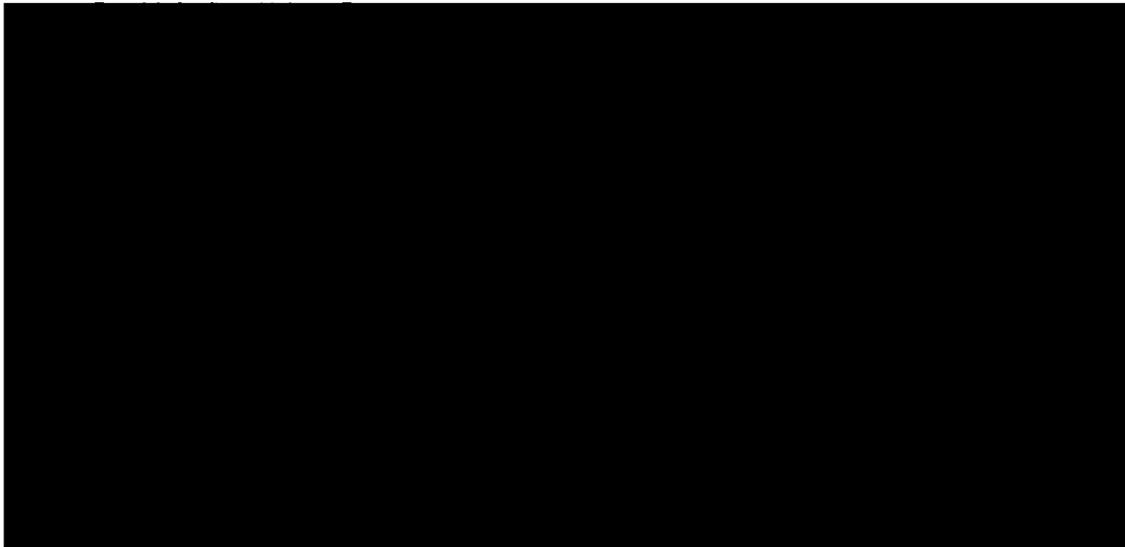
| ウ | 指定期間を通じて安定して指定管理業務を行うための人材育成や職員採用

VCの管理運営にあたっては、自然公園として多様な利用ニーズに対応するため、自然観察、登山、施設管理、安全管理、利用促進、地域協働など幅広い分野の知識と経験が求められます。

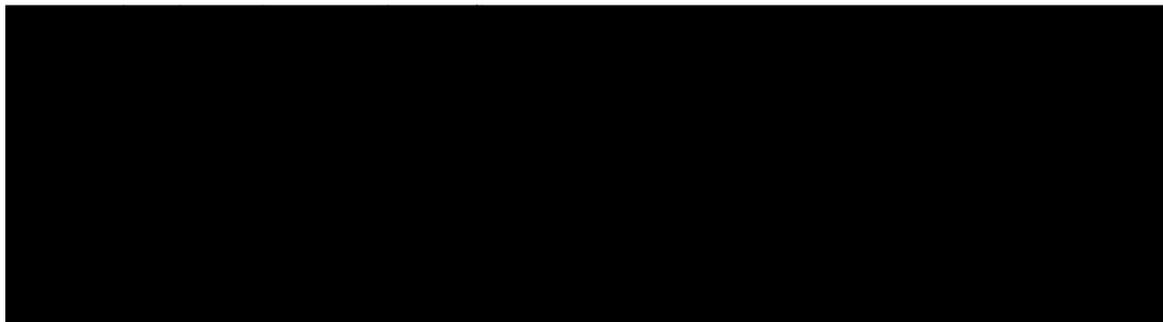
当協会では多様な施設管理業務に対応するため、全員を「ゼネラリストとしての素養を備え、かつ各専門分野にも長けた職員」として育成することを目標に、職員が積極的に能力開発に取り組めるよう制度を整えています。

■人材育成の仕組みの概要

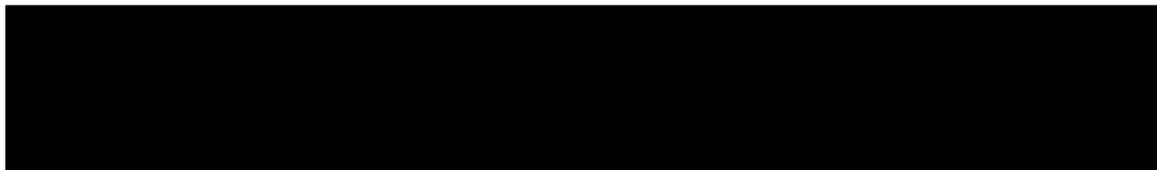
次のような人材育成の仕組みにより、職員一人ひとりの資質の向上を図ります。



■能力開発の取組



■職員の「やる気」と「潜在能力」を引き出す仕組み



■職員の採用について



■適切な利用指導を行うための研修



9 財政的な能力

別添資料

10 コンプライアンス、個人情報保護、社会貢献

(1) コンプライアンス

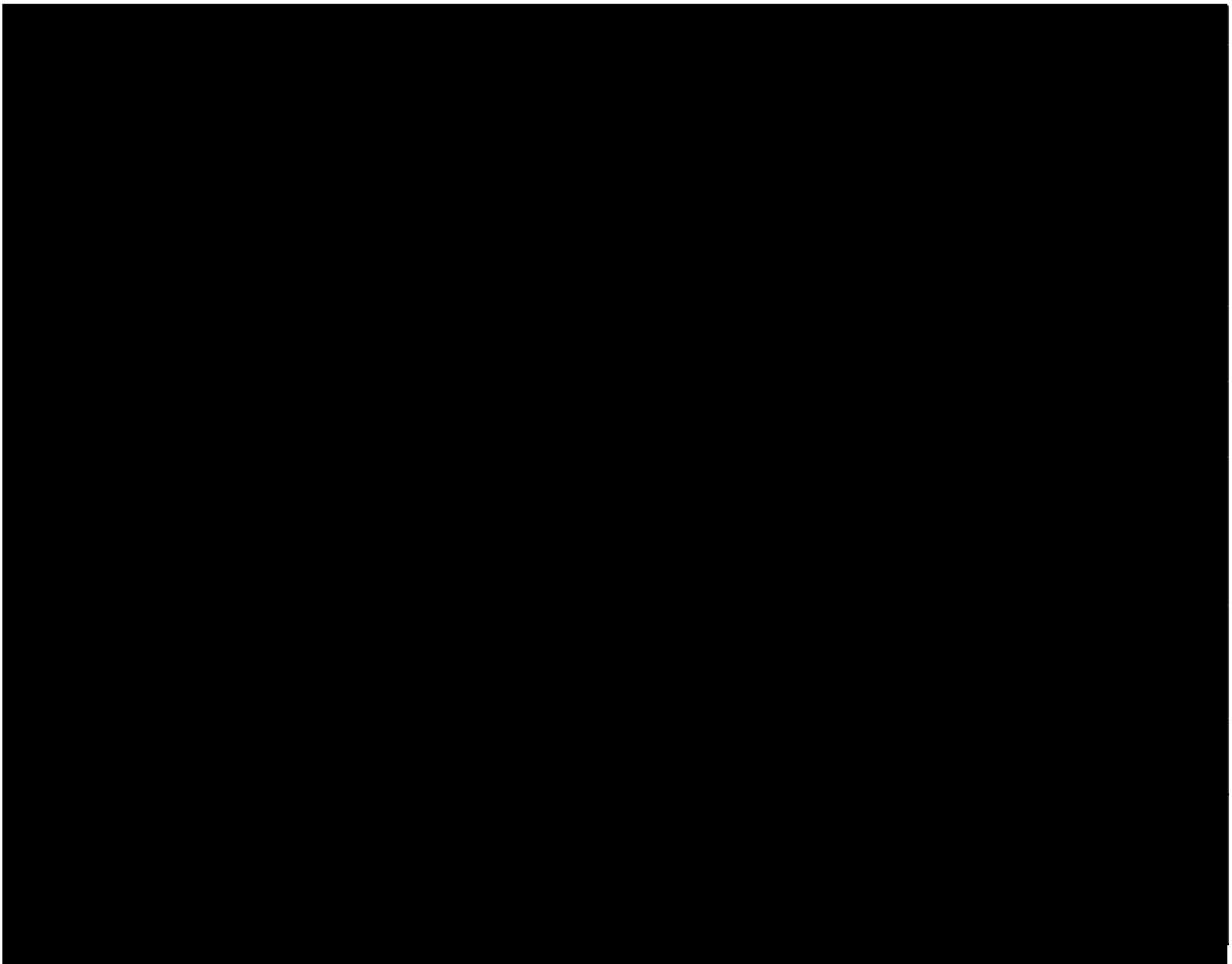
| ア | 指定管理業務を実施するために必要な団体の企業倫理・諸規程の整備、法令遵守の徹底に向けた取組の状況

■当協会の企業倫理

当協会は、協会の社会的信頼の維持および業務の公正性の確保に資するため、役職員に法令や協会が定める諸規程などの遵守を徹底し、責任ある事業実施に取り組んでいます。

また、理事、監事および評議員による協会の職務の執行状況の監督、さらには、コンプライアンス委員会や内部通報制度による厳重なチェック体制を設けるなど、役職員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるための体制・仕組みを整備しています。

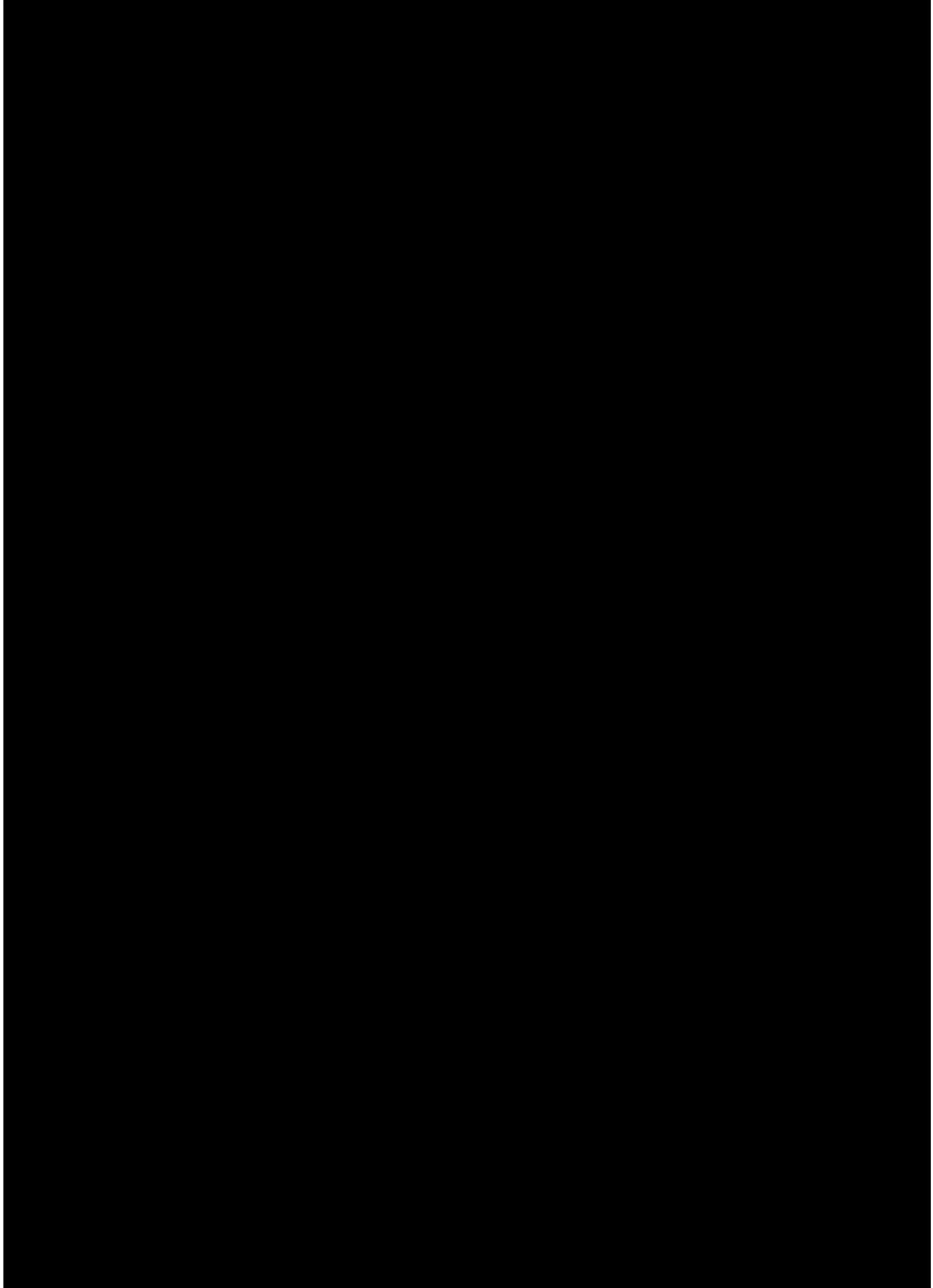
■当協会の主な諸規程



■法令遵守の取組状況

当協会は、公益財団法人としての使命を自覚し、社会的信頼の維持および業務の公正性の確保に資するため、「コンプライアンス要綱」や「コンプライアンスガイドライン」を定め、これらを研修などにおいて周知することで、役職員のコンプライアンスの徹底を図っています。

|イ| 申請開始の日から起算して過去3年間の重大な事故又は不祥事の有無並びに事故等があった場合の対応状況及び再発防止策構築状況



(2) 個人情報保護

当協会の個人情報に係る関連規程等に即し、利用者、関係機関、職員などの各種個人情報を適正に取扱っています。

■個人情報保護についての方針・体制

VCでは、様々な個人情報を取扱っており、業務に関わるすべての職員が、個人情報保護の重要性を認識して業務を行います。

万が一、個人情報の漏えいが発生した場合は、速やかに「協会が保有する個人情報の扱いに関するガイドライン」に基づく事務局長への届出を始め、関係機関、対象者に報告するとともに、二次漏えいの防止に努め、また、再発防止対策を講じます。



■個人情報の取扱いの状況



(3) 社会貢献

| ア | 指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況

VCは自然公園の利用拠点であり環境教育の拠点となるものであることから、環境配慮は非常に重要であると認識しています。

■ビクターセンターにおける環境負荷軽減の具体的取組

- 不要な照明や電子機器類の電源オフ
- グリーン購入（トイレトペーパー・コピー用紙・文具）
- コピー用紙裏紙の再利用
- 自主財源により建物内の照明をLED化
- 自主財源により窓を2重ガラス化【西丹沢VC】
- ペレットストーブの使用（バイオマス燃料）【西丹沢VC】



西丹沢VCのペレットストーブ

■ビクターセンターにおける自然環境の保全と緑化推進の具体的取組

- 丹沢大山自然再生事業への参加
- 特定外来生物の情報収集の協力（アライグマ、ガビチョウなど）
- 希少な動植物などの情報収集の協力（ツキノワグマ、ニホンカモシカなど）

■ビクターセンターにおける普及活動を通じた利用者・地域への発信の具体的取組

- 地元企業のCSR活動受入れ
- 展示や解説による環境教育
- 地域小中学校の課外授業利用の促進

【イ】法定雇用率の達成状況等、障がい者雇用促進の考え方と実績

当協会では現在5人の障がい者を雇用しています。障がい者が業務を行う上で、一人ひとりの障がいの状況やスキルの習得状況に応じて、公園での外勤作業や受付・事務など、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。今後も、特別支援学校の生徒の就労に向けたインターンシップ（現場実習）の受入れに協力するなど、地域の障がい者雇用を促進するため、就労機会の提供に取り組めます。

■法定雇用率を上回る雇用努力

当協会全体では、平成27年度現在、5人を雇用（障がい者カウント数3人）

■障がい者雇用を行う企業等への積極的な業務発注

私たちは、障がい者の直接雇用に加え、障がい者就労施設への積極的な業務発注に努め、地域の障がい者支援施設の施設外就労を支援しています。

対象施設・事業	具体的な作業	発注先(平成27年度実績)
相模原公園	除草、清掃など公園内の維持管理作業	社会福祉法人への委託 (すずらん会ワークショップ・フレンド)
辻堂海浜公園	園内の清掃	特定非営利活動法人への委託 (木曜クラブ)
茅ヶ崎里山公園	除草、清掃など公園内の維持管理作業	社会福祉法人への委託 (ライフ湘南)
当協会花苗事業	花苗・苗木の生産など	社会福祉法人への委託 (進和学園)

※障がい者の法定雇用率の高い企業へ優先的に発注する仕組みづくりにも取り組んでいきます。

| ウ | 社会貢献活動等、CSRの考え方と実績

■学校教育の一助として

自然体験が子どもたちの豊かな心を育てるために必要であるとされている中で、学校教育において「生きる力」を育む手立ての一つとして、遠足や林間学校などにおいてVCが利活用されています。

一方で、専門的な指導を求められるなど引率教員などへの負担も大きくなるため、両VCでは、職員がそのサポートを行ってきた実績があります。

- VCでの団体対応の野外ガイド、スライドトーク
- 対象児童、生徒に応じたプログラムの提供
- 学校に職員を派遣して授業の実施
- 学校が主催する野外学習のアドバイス
- 教員対象の研修会の講師

■県の事業への協力、連携

丹沢自然再生事業、水源環境保全事業、水源の森林づくり事業、未病を治すかながわ宣言、山のトイレ紙持ち帰り事業などに協力しています。

◆◇神奈川県公園協会の主な公益目的事業（公園、ビジターセンター管理運営事業を除く）◇◆

○ 箱根の自然に親しむ運動事業

環境省、神奈川県、箱根町などと協働し、誰もが箱根の自然に親しみ、自然の大切さを体感することができる機会を提供し、自然環境の保護の普及啓発を図るなど、不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的とした事業を行っています。

○ グリーンエンジョイ開催事業

みどりのまちづくりを推進するため、参加者がみどりのもたらす効果、大切さを身近に感じてもらう場を提供することにより、不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的として実施しています。

「みどり」を通じて快適な都市づくりを推進するための普及事業を平成 15 年度より実施しています。

○ みどりのまちづくり推進講座

豊かな暮らし、住みよいまちづくりを推進するために、より身近な都市緑化の知識や技術が習得できるなど、不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的とした事業を行っています。

「みどり」を育てる仲間をつくることを目的とした、「みどりのまちづくり推進講座」を平成 17 年度より開催しています。

○ 周辺地域緑化事業

地域と共に、花とみどりの美しいまちづくりを推進し、県民自らの緑化活動を支援するため、当協会では平成 26 年度から、地域の学校や団体などへ花などの苗を配布し、植栽への補助、協力をしています。

11 これまでの実績

(1) これまでの実績について

| ア | 指定管理施設及び類似の業務を行う施設等での管理実績の状況

当協会はこれまで、数多くの自然公園関連施設や都市公園など、様々な公の施設の管理運営に携わってきました。各施設の特性に応じた管理運営を行うなかで、公益的な事業展開により地域社会への貢献を続けてきました。

■自然公園関連施設の管理実績

すべての県立VCを管理した実績があり、これまでに丹沢に関する情報を長年にわたって蓄積してきました。

管理施設名	管理期間	所在地	備考
県立陣馬自然公園センター	平成 2年4月～ 平成 27年3月	相模原市緑区	廃止による委託終了
県立宮ヶ瀬ビジターセンター	平成 3年4月～ 平成 28年3月	清川村	廃止による委託終了
県立丹沢湖ビジターセンター	平成 8年4月～ 平成 27年3月	山北町	廃止による委託終了
県立西丹沢自然教室	平成 8年4月～	山北町	
県立秦野ビジターセンター	平成 9年7月～	秦野市	

■都市公園などの管理実績（抜粋）

管理施設名	管理期間	所在地
県立保土ヶ谷公園	昭和 50年4月～	横浜市保土ヶ谷区
県立辻堂海浜公園	昭和 50年7月～	藤沢市
県立恩賜箱根公園	昭和 51年4月～	箱根町
県立相模原公園	昭和 60年4月～	相模原市南区
県立大磯城山公園	昭和 60年4月～	大磯町
県立七沢森林公園	昭和 62年4月～	厚木市
県立座間谷戸山公園	平成 5年4月～	座間市
県立秦野戸川公園	平成 9年4月～	秦野市
県立津久井湖城山公園	平成 11年4月～	相模原市緑区
県立茅ヶ崎里山公園	平成 13年4月～	茅ヶ崎市
県立境川遊水地公園	平成 19年8月～	横浜市泉区・戸塚区、藤沢市
県立山岳スポーツセンター	平成 9年7月～	秦野市

| イ | 他の自治体等における指定取消しの有無

当協会が運営する施設において、指定取消しになったことはありません。

12 その他

①ビクターセンター職員が発表した論文

当協会では、自然や野外活動のスペシャリストをVCに配置しています。職員が得た丹沢に関する知見を論文として発表し、学術的な貢献を行っています。

丹沢に関する主な論文（下線：平成27年度在籍の職員）

発表年	著者	タイトル	掲載誌
2005年	青木雄司・藤井幹	宮ヶ瀬周辺の鳥類記録	神奈川県自然誌資料
2006年	青木雄司・柳川美保子・ほか	神奈川県におけるムササビの分布	神奈川県自然誌資料
2007年	長縄今日子・中山文	丹沢山麓におけるアライグマの分布と防除の現状	丹沢大山総合調査学術報告書
2007年	田村淳・長澤展子・山本幸子	山北町で新たに発見したシダ植物 -2006年の成果-	FLORA KANAGAWA
2009年	長縄今日子・門田真人・窪田迅郎	東丹沢におけるナガラゴガエルの繁殖活動について	神奈川県自然誌資料
2009年	青木雄司・守屋博文	丹沢産ヤマメの消化管内容物について	神奈川県自然誌資料
2010年	広谷浩子・長縄今日子	神奈川県丹沢産ツキノワグマの胃内容について	神奈川県自然誌資料
2010年	青木雄司・柳川美保子・ほか	神奈川県におけるカヤネズミ <i>Micromys minutu</i> の分布	神奈川県自然誌資料
2010年	谷脇美雪・酒井明子・青木雄司	丹沢山塊で確認したコテングコウモリ	BINOS
2012年	長縄今日子・樽創	丹沢山地におけるツキノワグマの冬眠確認-適正な保護管理のために-	神奈川県自然誌資料
2012年	鈴木藤子・谷脇美雪・酒井明子・青木雄司	丹沢で見つかった分娩途中に死亡したカモシカ	BINOS
2014年	長縄今日子・柳沢美果子	神奈川県におけるトワダオオカの初記録	神奈川虫報
2014年	石川秀和・長縄今日子	丹沢山地におけるツキノワグマのシイ・カシ類の堅果の利用について	神奈川県自然誌資料
2014年	鈴木藤子	宮ヶ瀬春ノ木丸におけるタヌキとアナグマのフン場の利用について	BINOS

②富士箱根伊豆国立公園での表彰

当協会は、
「箱根の自然に親しむ運動」での観察会の実施
「箱根自然解説活動連絡協議会」への協力
「箱根大涌谷園地活性化協議会」の事務局運営
大涌谷園地での駐車場運営
などを通して、国立公園の保護や適切な利用促進を行ってきました。そうした活動が認められ、平成28年3月に表彰を受けました。

